

学校要覧

2024



沖縄で学ぶ 沖縄から世界へ 咳かせよう未来 最南の地から最先端へ

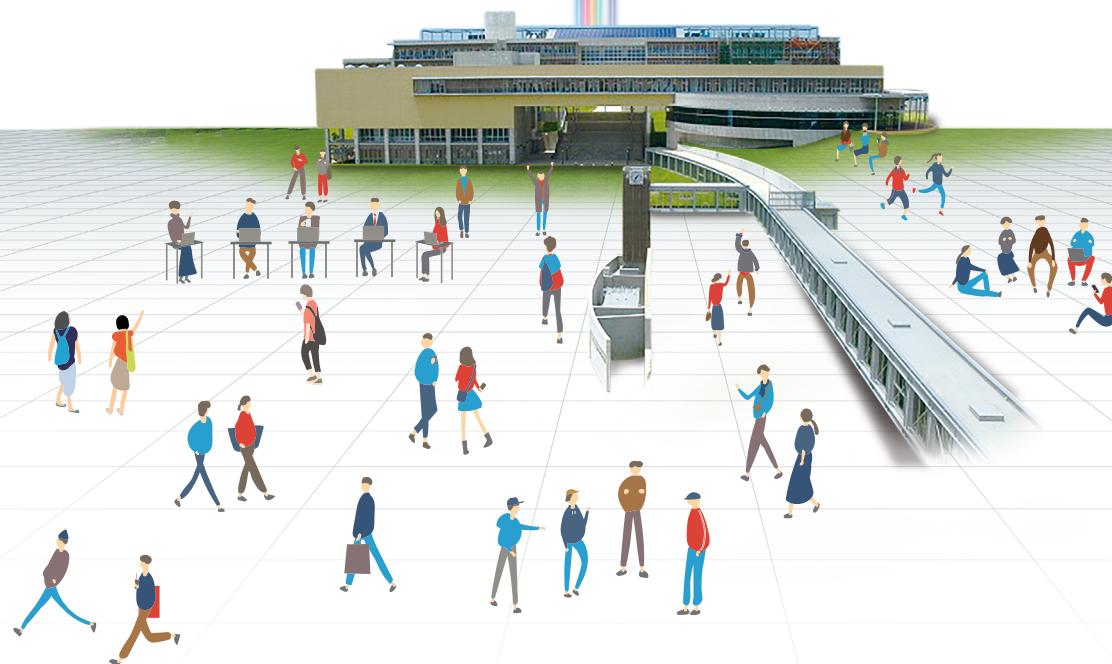
NATIONAL INSTITUTE of TECHNOLOGY, OKINAWA COLLEGE College Handbook

本科

- 機械システム工学科
- 情報通信システム工学科
- メディア情報工学科
- 生物資源工学科

専攻科

- 創造システム工学専攻



独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

目 次

挨拶 沖縄工業高等専門学校 校長 佐 藤 貴 哉	1	学 生	32
沿革	2	◆学生定員・現員	32
高等専門学校の概要	3	◆入学志願者及び入学者	32
組織	4	◆高等学校等就学支援金制度	33
◆会議・委員会	4	◆奨学生	33
◆事務部連絡先	4	◆主な学費	33
◆組織図	5	◆高等教育の修学支援新制度	33
役職員一覧	6	◆令和6年3月卒業者の進路状況	34
◆教育職	6	◆令和6年3月修了者の進路状況	35
◆事務職	6	卒業生のコメント	35
◆技術職	6	学生寮	36
◆教職員数	6	図書館	37
◆歴代校長	7	技術支援室	38
◆名誉教授	7	夢工場	39
教育理念・目的・教育目標	8	多文化共生・国際交流推進本部	40
三つの方針	10	地域連携研究推進センター	41
本 科	16	産業界との連携	42
■ 機械システム工学科	16	キャリア教育センター	42
■ 情報通信システム工学科	18	学生相談・支援室	43
■ メディア情報工学科	20	情報処理センター	43
■ 生物資源工学科	22	学生会	44
■ 総合科学科	24	九州沖縄地区高専体育大会主要実績	44
専攻科	26	コンテスト関係主要実績	45
■ 創造システム工学専攻	26	DCON2024での学生の活躍	46
特色のある教育	28	女性教員の活躍	47
■ 観光・地域共生デザインコース	28	収支報告・外部資金	48
■ 航空技術者プログラム	29	建物配置図・土地・建物	49
■ IoT 教育事業	30		
■ 未来技術の社会実装教育	31		

校章の由来



沖縄高専の位置する「やんばる（沖縄本島北部）の深き緑」と「青き豊かな海」を表現し、周囲を取り囲む円で「沖縄の青い空」を表している。



挨 捂

独立行政法人 国立高等専門学校機構

沖縄工業高等専門学校

校長 佐藤 貴哉

沖縄工業高等専門学校は、全国の51校の国立高等専門学校の中で最も新しい高専として名護市辺野古に誕生し、本年2024年4月には本科第21期生、専攻科16期生を迎えることが出来ました。世界的なIT(Information Technology)技術の発展期に創設された本校は、二つの情報工学系学科と沖縄の生物資源を有効活用するライフサイエンス系の学科、もの造りの基盤である機械工学を加えた4学科(機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科)で技術者養成と技術による地域・社会貢献を目指し、地域と共に発展する高専として歩んで来ました。20年を経た今、沖縄高専の卒業生は、各種製造業、航空機産業、情報通信産業、医薬/食品/ライフサイエンス、インフラ、一次産業の情報化などの分野において、技術とビジネスを牽引する創造的技術者に育っています。そして、自らのアイデアと技術で起業し、デジタル産業をクリエイトする若き経営者となった卒業生も増えてきています。学校としての沖縄高専は、数ある高専の中でも技術の「社会実装」を得意とする高専になりました。沖縄高専は、『社会の課題を見つけ、技術とアイデアで社会に貢献するという実際的な活動を学びの場の一つとして捉える』技術者育成の手法を確立してきました。

また本校独自の技術者育成プログラムとして、航空業界で活躍できる技術者を育成する「航空技術者プログラム」と沖縄のリーディング産業である観光産業を始めとして、沖縄のあらゆる分野で、数理データサイエンスやデジタル技術を駆使して新しい付加価値を創造できる創造的技術者(イノベーター)を養成する「観光・地域共生デザインコース」があります。本科5年間に亘る学習や社会実装を目指した研究活動に学生が取り組むことで、『自分で課題を発見し、自分で考え行動し、結論まで導く力』を身に着けていきます。そして卒業生は創造的なリーダー技術者として世界に羽ばたきます。

高専のもう一つの魅力は、卒業後の多彩なキャリアパスにあります。就職を希望する学生はほぼ100%県内外の企業等に就職します。一方、本科卒業後に専攻科に進学することによって、学士(工学)の学位を取得することができます。その後に大学院に進学する学生も数多くいます。一方、本科卒業と同時に大学の三年生に編入学することも可能です。高専とは違った環境で学士取得を目指す学生も数多くいます。

皆さん、沖縄の地で最先端の科学技術を基礎から学び、沖縄や日本、そして世界に貢献できるプロフェショナルを目指しませんか。本校は皆さんの夢をかなえるお手伝いをします。

沿革

沖縄工業高等専門学校は、沖縄県、関係市町村及び産業界からの強い要請を受けて、平成14年4月10日に「国立学校設置法の一部を改正する法律（平成14年法律第23号）」の公布により、平成14年10月に開学しました。平成16年1月28日の1期工事竣工を経て、同年4月10日に第1回入学式を挙行し、175名の第1期生が入学しました。

沿革の年譜

平成9年（1997）

■1月22日

沖縄政策協議会プロジェクトチーム現地会合において、沖縄県側から国立工業高等専門学校の誘致について要請

平成11年（1999）

■8月11日

稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校の早期設置に関する要望書の提出

■9月27日

稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校設置候補地について名護市辺野古地区を推薦し要請

■12月28日

「国立高等専門学校設置の確実な実現」が盛り込まれた「沖縄県北部地域の振興に関する方針」等が閣議決定

平成12年（2000）

■3月1日

国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査室を琉球大学に設置

■3月17日

国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査委員会を設置

■4月1日

国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会を設置

■8月10日

「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（中間まとめ）」を取りまとめ公表

平成13年（2001）

■4月20日

国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教育方法・課程等部会及び施設・設備等部会を設置

■7月27日

国立高等専門学校（沖縄）の設置に必要な用地の取得等について依頼

平成14年（2002）

■1月24日

国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教員選考部会を設置

■4月10日

国立学校設置法改正

■6月5日

「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（最終まとめ）」を取りまとめ公表

■10月1日

沖縄工業高等専門学校開学（機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科）初代校長に糸村昌祐が就任

■10月24日

沖縄工業高等専門学校開学記念シンポジウムの開催

平成15年（2003）

■2月27日

沖縄工業高等専門学校起工式の挙行

■3月31日

事務室をNTT名護別館（名護市大東）に移転

平成16年（2004）

■1月10日

推薦による選抜試験の実施

■1月28日

第Ⅰ期工事竣工

■2月22日

学力検査による選抜試験の実施

■3月10日

名護市民会館にて第1期生に対する入学説明会を開催

■3月22日

事務室を新校舎（辺野古）に移転

■4月10日

第1回入学式を挙行、175名が入学

■4月21日

沖縄工業高等専門学校産学連携協力会を発足

■8月2日

学生会発足

■9月30日

第Ⅱ期工事竣工

■10月31日

沖縄工業高等専門学校後援会設立総会開催

■11月5日

沖縄工業高等専門学校竣工記念式典を挙行

平成17年（2005）

■2月2日

レリーフ除幕式を挙行

平成21年（2009）

■3月21日

第1回卒業式を挙行、147名が卒業

■4月1日

専攻科（創造システム工学専攻）を設置

■4月4日

第1回専攻科入学式を挙行、28名が入学

平成22年（2010）

■4月1日

第2代校長に伊東繁が就任

平成23年（2011）

■3月19日

第1回専攻科修了式を挙行、27名が修了

■3月25日

専攻科棟竣工

平成24年（2012）

■4月27日

日本技術者教育認定機構（JABEE）認定

平成25年（2013）

■4月3日

第10回入学式を挙行、166名が入学

■9月21日

創立10周年記念式典を挙行

平成27年（2015）

■4月1日

第3代校長に安藤安則が就任

■4月1日

航空技術者プログラム設置

令和2年（2020）

■4月1日

第4代校長に伊原博隆が就任

令和4年（2022）

■4月1日

第5代校長に佐藤貴哉が就任

令和5年（2023）

■4月1日

観光・地域共生デザインコース設置

■9月16日

創立20周年記念式典を挙行

高等専門学校の概要

高等専門学校は、昭和30年代の経済成長期に、科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者が必要とされたことを背景として、経済産業界からの強い要請により、昭和37年度に創設されました。

現在では、全国に国立51校、公立3校、私立4校の合計58校の高等専門学校があります。

なお、平成16年4月1日より、当時の国立55校は、独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する国立の高等専門学校となっています。

高等専門学校は、中学校卒業生を受け入れ、高等学校3年間と大学の2年間に相当する5年間の一貫教育を行う高等教育機関です。

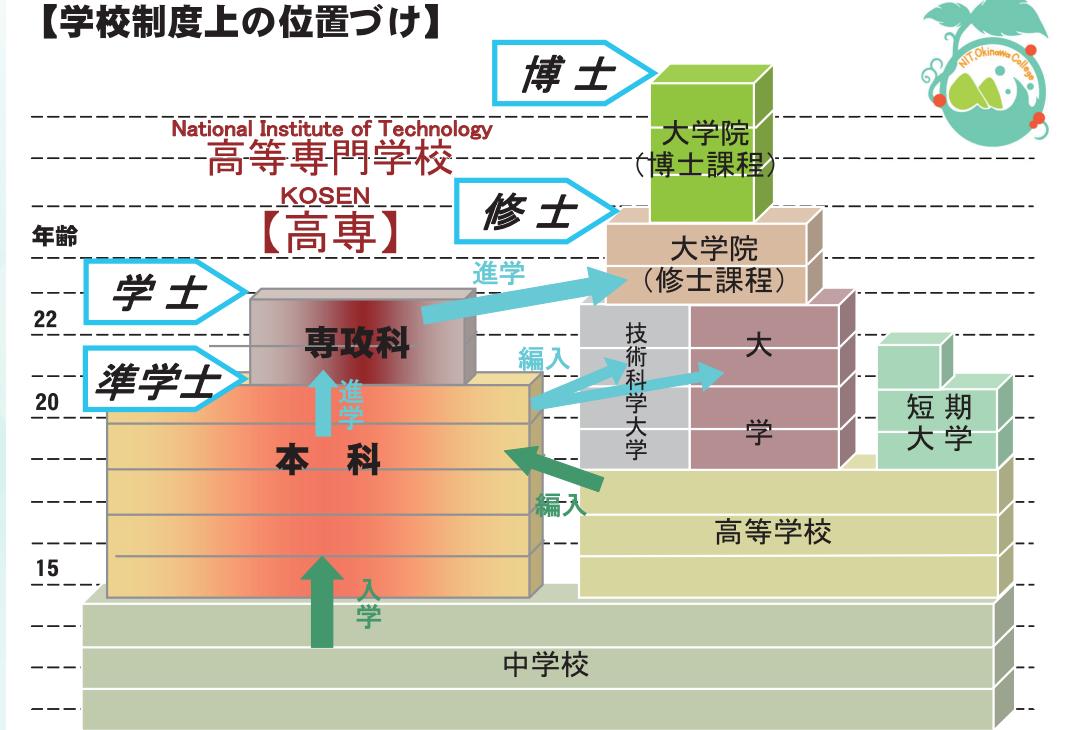
理論的な基礎とその上に立った実験・実習・演習を重視した実践的な技術教育や少人数クラス編制でのきめ細かな教育による創造性あふれる実践的技術者の養成には、経済産業界から高い評価を得ています。

高等専門学校を卒業すると、「準学士」の称号が与えられます。

また、卒業後の進路は、企業や官公庁等への就職（就職率は例年90%以上）、大学3年次への編入学、専攻科への進学（大学評価・学位授与機構の審査に合格すると「学士」の学位が与えられます。）と多岐にわたっています。

高等専門学校制度の概要

【学校制度上の位置づけ】



- ・高校卒業生は、高専4年次への編入資格があります。
- ・高専卒業生は、大学3年次への編入資格があります。
- ・高専卒業生は高専の専攻科に進学する資格があります。
- ・専攻科では最新の科学知識と技術を更に深めたい学生のため、2年間のより高度な技術者教育を行います。修了して「学士」を得た者は大学院への入学資格があります。

組織

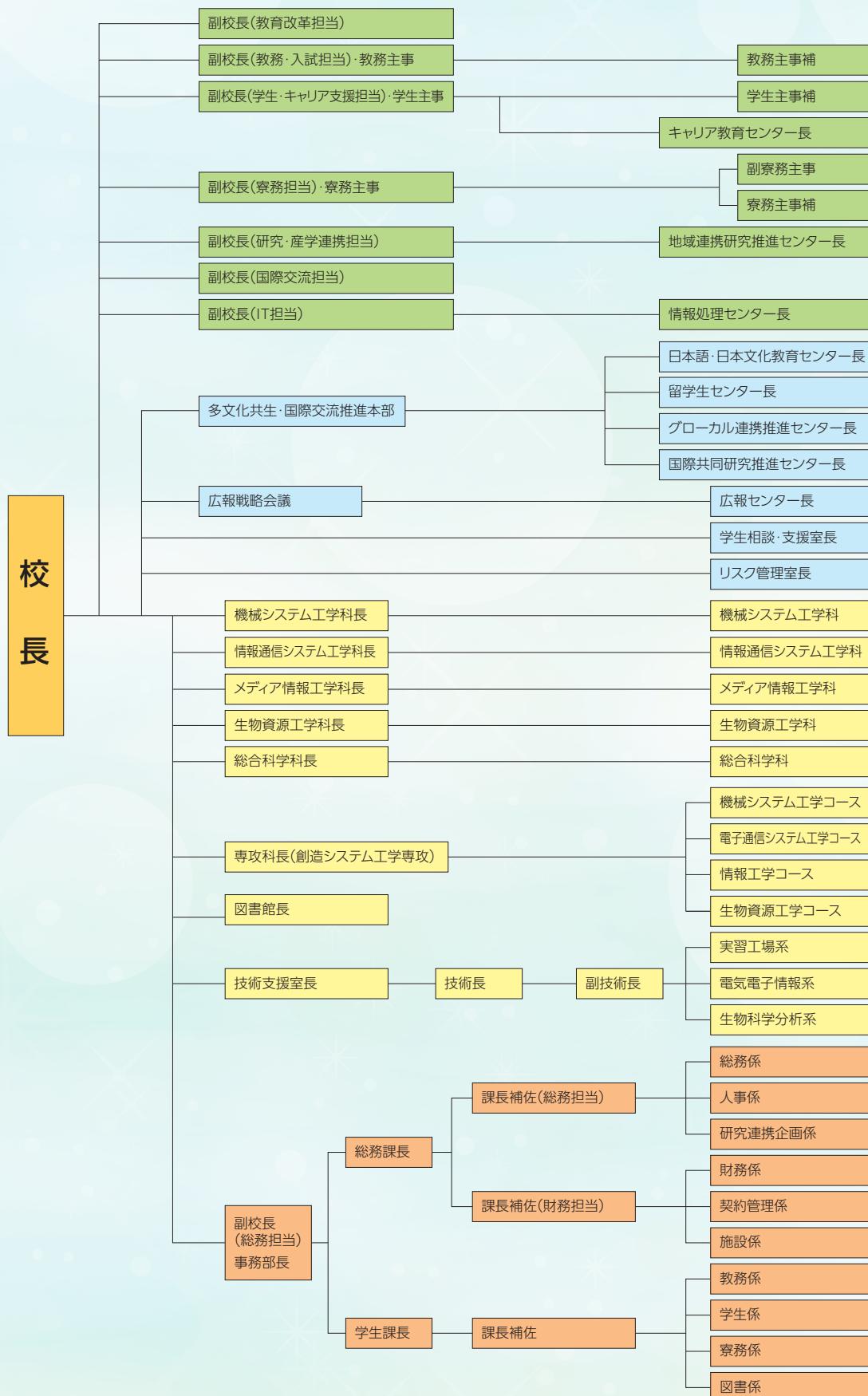
会議・委員会

◆ 運営会議	◆ 評価対応委員会
◆ 広報戦略会議	◆ 技術支援室運営委員会
◆ いじめ対策委員会	◆ 知的財産委員会
◆ 総務委員会	◆ 遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会
◆ 図書館運営委員会	◆ 動物実験委員会
◆ 教務委員会	◆ ヒト研究倫理審査委員会
◆ 入学者選抜実施委員会	◆ 男女共同参画推進委員会
◆ FD・SD 実施委員会	◆ キャンパス・ハラスメント防止委員会
◆ 学生委員会	◆ 職員レクリエーション委員会
◆ 学生寮委員会	◆ 情報セキュリティ管理委員会
◆ 安全衛生委員会	
◆ 専攻科運営委員会	
◆ 航空人材育成委員会	

事務部連絡先

係	電話番号	メールアドレス
総務課 総務係	0980-55-4003	ssoumu@okinawa-ct.ac.jp
人事係	0980-55-4006	sjinji@okinawa-ct.ac.jp
研究連携企画係	0980-55-4070	skrenkei@okinawa-ct.ac.jp
財務係	0980-55-4014	szaimu@okinawa-ct.ac.jp
契約管理係	0980-55-4020	skkanri@okinawa-ct.ac.jp
施設係	0980-55-4023	ssisetu@okinawa-ct.ac.jp
学生課 教務係	0980-55-4028	gkyoumu@okinawa-ct.ac.jp
学生係	0980-55-4032	ggakusei@okinawa-ct.ac.jp
寮務係	0980-55-4039	gryoumu@okinawa-ct.ac.jp
図書係	0980-55-4037	stosyo@okinawa-ct.ac.jp

組織図



役職員一覧

教育職

校長	佐藤 貴哉
----	-------

副校長（教育改革担当）	眞喜志 治
副校長（教務・入試担当） 教務主事	山田 親穏
副校長（学生・キャリア支援担当） 学生主事	神里 志穂子
副校長（寮務担当） 寮務主事	安里 健太郎
副校長（研究・産学連携担当）	高良 秀彦
副校長（国際交流担当）	田中 博
副校長（IT担当）	與那嶺 尚弘
副校長（総務担当） 事務部長	亀井 耕治

機械システム工学科長	武村 史朗
情報通信システム工学科長	中平 勝也
メディア情報工学科長	玉城 龍洋
生物資源工学科長	磯村 尚子
総合科学科長	山本 寛
専攻科長	高良 秀彦
図書館長	澤井 万七美
技術支援室長	亀井 耕治
広報センター長	山田 親穏

リスク管理室長

亀井 耕治

学生相談・支援室長

比嘉 吉一

キャリア教育センター長

亀濱 博紀

地域連携研究推進センター長

赤嶺 宗子

多文化共生・国際交流推進本部長

田中 博

日本語・日本文化教育センター長

玉城 梢

留学生センター長

吉居 啓輔

グローバル連携推進センター長

沖田 紀子

国際共同研究推進センター長

磯村 尚子

情報処理センター長

與那嶺 尚弘

事務職

総務課長

齋藤 洋史

課長補佐（命）学生課長 心得

高江洲 哉子

技術職

副技術長・技術専門員

藏屋 英介

技術専門員

具志 孝

技術主査（実習工場系）
技術専門職員

大嶺 幸正

技術主査（生物科学分析系）
技術専門職員

渡邊 謙太

教職員数

令和6年5月1日現在

	校長	教授	准教授	講師	助教	教員計	事務系職員	技術職員	看護師	合計
現員	1	27	17	9	3	57	31	9	1	98

歴代校長

	氏名	在任期間
初代校長	糸村 昌祐 いとむら しょうすけ	平成14年10月1日～平成22年3月31日
2代校長	伊東 繁 いとう しげる	平成22年4月1日～平成27年3月31日
3代校長	安藤 安則 あんどう やすのり	平成27年4月1日～令和2年3月31日
4代校長	伊原 博隆 いはら ひろたか	令和2年4月1日～令和4年3月31日
5代校長	佐藤 貴哉 さとう たかや	令和4年4月1日～

名誉教授

元職	氏名	授与年月日	元職	氏名	授与年月日
校長	糸村 昌祐	平成26年9月	教授	宮田 恵守	令和元年5月
教授	松栄 準治	平成26年9月	教授	網谷 厚子	令和元年5月
教授	真鍋 幸男	平成26年9月	校長	安藤 安則	令和2年4月
教授	高木 茂	平成26年9月	教授	姉崎 隆	令和2年4月
校長	伊東 繁	平成27年5月	教授	三枝 隆裕	令和2年4月
教授	角田 正豊	平成29年5月	教授	正木 忠勝	令和2年4月
教授	鈴木 龍司	平成29年5月	校長	伊原 博隆	令和4年4月
教授	新川 智清	平成29年5月	教授	星野 恵里子	令和6年4月
教授	知念 幸勇	平成29年5月			

教育理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

目的

教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。

教育目標

本科

本科教育目標

1. 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
2. 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
3. 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
4. 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

<各学科の人材育成上の目的及び教育目標>

【機械システム工学科】

人材育成上の目的

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点で「モノづくり」を支えることのできる実践力の高い技術者を育成する。

教育目標

1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2. 材料・加工学等の要素技術やCAD・CAM・CAE等のコンピュータを使用した生産技術力
3. 各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
4. 電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

【情報通信システム工学科】

人材育成上の目的

環境と技術の調和および社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を習得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。

教育目標

1. 総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力
2. コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力
3. 通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要となる通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力
4. 情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

【メディア情報工学科】

人材育成上の目的

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

教 育 目 標

1. 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
2. コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力
3. ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力
4. 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

【生物資源工学科】

人材育成上の目的

生物資源の活用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学、食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、環境に配慮し、産業界の要請に応えるべく実践的・創造的技術者を育成する。

教 育 目 標

1. 生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力
2. 地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力
3. 微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力
4. 生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

専 攻 科

専攻科教育目標

1. 知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
2. 創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
3. 専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
4. 地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する

三つの方針

本科

<ディプロマポリシー>

本科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

【全学科共通】

1. 理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力、及び、各専門分野の基礎的な知識と技術を持ち、それらを実践に応用することができる。
2. 様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力、及び、技術者にふさわしい倫理観に基づき、その専門知識を社会のために役立てることができる。
3. 自らの資質と現在の能力を見極め、それらを磨き高める努力を主体的に続けることができる。

<カリキュラムポリシー>

本科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

【全学科共通】

1. 理工系の分野に共通して必要とされる基礎的な学力を身につけ、各専門分野の基礎的な知識と技術を修得、応用する科目を配置する。
2. 様々な人々と主体的に協働して課題解決に取り組むことのできるコミュニケーション能力と、技術者にふさわしい倫理観を修得する科目を配置する。
3. 繼続的に学習していく能力を養う科目を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は、各学期の試験の成績、提出物、出席状況及び学習態度等を総合し、以下の区分により評価する。

S (100~90点) 秀 A (89~80点) 優 B (79~70点) 良 C (69~60点) 可
F (59~0点) 不可

<アドミッションポリシー>

本科では、本校の教育理念、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、次のような人材を求める。

【全学科共通】

1. 理数系分野に興味があり、それらの科目において基礎的な学力を有している人
2. 責任感と忍耐力を備え、様々な人々との主体的な協働と学びを通じてコミュニケーション能力を高めることができる人
3. 規則正しい生活と自発的な学習ができる人

入学者の選抜は、以下の4つの方法で行う。

【推薦による選抜】

本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、調査書による評価と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

【学力検査による選抜】

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行う。

【帰国生徒特別選別】

本校への関心があり、日本国外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行う。

【編入学者選抜】

本校への関心があり、高等学校等を卒業後、技術者としての素養を身につけたいと強く希望する志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査及び面接により選抜を行う。

機械システム工学科 の三つの方針

＜ディプロマポリシー＞

機械システム工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

1. 機械工学分野の知識を活用し、課題解決に向けて行動できる。
2. 他者と協働し、倫理観・責任感を持って課題に取り組むことができる。
3. 機械工学分野の技術を活用し、課題解決に向けて行動できる。

＜カリキュラムポリシー＞

機械システム工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. 機械システムの知識を修得する、物理と数学を基礎としたいわゆる四力学と、これらを基盤とした基礎専門科目を配置する。
2. 課題解決能力を育成する、課題の本質を理解し論理的に解決する能力を育成する卒業研究、他者と協働して課題を解決しようとする能力を育成する科目を配置する。
3. 機械システムの技術を修得する、実践的な機械システム工学の実験や実習、設計製図実習、プログラミング演習などの実技科目を配置する。

＜アドミッションポリシー＞

機械システム工学科では、次のような人材を求める。

1. 機械やモノづくりに興味のある人
2. 機械に関する専門知識と技術を修得し、モノづくりによる社会に貢献したい人
3. 機械の動く仕組みや構造を理解したい人

情報通信システム工学科 の三つの方針

＜ディプロマポリシー＞

情報通信システム工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

1. 情報通信工学の基礎的知識を活用し、それらを応用することができる。
2. 論理的思考力と技術者としての倫理観を体得し、課題に対してグローバルな視点から、解決に向けてコミュニケーションを図ることができる。
3. 課題に対して主体的かつ計画的に物事を進めることができ、課題解決に導くことができる。

＜カリキュラムポリシー＞

情報通信システム工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. 情報通信工学の基礎的な知識を活用し、それらを応用する科目を配置する。
2. 論理的思考力や発表と討議の能力を育成する科目として、電気電子回路・情報・通信工学に関する実験・実習・演習科目を配置する。
3. 課題に対して自主的かつ計画的に物事を進め、課題解決に導く能力を滋養するために、実験、実習、演習科目を体系的に配置する。

＜アドミッションポリシー＞

情報通信システム工学科では、次のような人材を求める。

1. 新しい電子機器やソフトウェアに興味のある人
2. 情報や通信の技術によって社会に貢献したい人
3. 情報や通信の技術を身につける意欲のある人

メディア情報工学科 の三つの方針

＜ディプロマポリシー＞

メディア情報工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

1. 情報工学やコンテンツ制作に関する基礎的知識を修得し、それらを応用することができる。
2. 倫理観や課題解決能力、コミュニケーション力を修得しており、情報工学とコンテンツ制作に関する専門知識を社会に役立てることができる。
3. 情報工学とコンテンツ制作における課題を解決するために継続的に自己研鑽できる。

＜カリキュラムポリシー＞

メディア情報工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. ソフトウェアやコンピュータネットワークなどの情報工学やコンテンツ制作に関する科目を配置する。
2. ソフトウェア開発やネットワーク構築、コンテンツ制作を通して、共同で問題解決に取り組む姿勢とコミュニケーション力を修得する科目を配置する。
3. 課題に対して自主的かつ計画的に物事を進め、課題解決に導く能力を滋養するために、ソフトウェア開発やネットワーク構築、コンテンツ制作などの実験・実習科目を体系的に配置する。

＜アドミッションポリシー＞

メディア情報工学科では、次のような人材を求める。

1. ソフトウェア、コンピュータネットワーク、コンテンツ制作技術に興味のある人
2. ソフトウェア、コンピュータネットワーク、コンテンツ制作の技術によって社会に貢献したい人
3. ソフトウェア、コンピュータネットワーク、コンテンツ制作の技術を自主的、継続的に学べる人

生物資源工学科 の三つの方針

＜ディプロマポリシー＞

生物資源工学科では、以下の能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

〔修得する能力〕

1. バイオテクノロジーの基礎的な知識と技術を身につけ、生物資源を創造的且つ実践的な研究開発につなげることができる。
2. 技術者として倫理観を体得し、お互いの考えを理解・共有するためのコミュニケーション力を備え、互いに協調・協力して解決すべき課題に取り組むことができる。
3. 常に新しい情報や専門知識の収集・獲得する姿勢を持ち続け、それらに基づいて考え、仕事に応用・発展させることができる。

＜カリキュラムポリシー＞

生物資源工学科では、ディプロマポリシーに示した能力を育成するため、以下のカリキュラムを編成する。

1. 生物化学工学群及び環境・微生物学群、食品化学工学群から構成される生物工学の基礎知識と技術を習得する科目群と、それらを応用する科目群を配置する。
2. 生物工学の技術者として倫理観・課題解決能力・コミュニケーション力を育成する全学科共通専門科目及び専門実験・実習科目を配置する。
3. 実験・演習を通して継続的に学習する力を養う共通群科目を配置する。

＜アドミッションポリシー＞

生物資源工学科では、次のような人材を求める。

1. バイオテクノロジーに興味のある人
2. 生物、化学、環境、食品などに関する知識と技術によって社会に貢献したい人
3. 生物資源を様々な角度から理解し、知識と技術を身につける意欲のある人

専攻科

<ディプロマポリシー>

専攻科（創造システム工学専攻）では、ディプロマポリシーに掲げた能力・姿勢を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して修了を認定する。

[修得する能力]

1. 深い専門知識と幅広い関連分野の知識を持ち、これらを活用することができる。
2. 倫理観を持ち、他者と協働することができ、論理的に物事を考え、表現することができる。
3. グローバルな視点で、多面的に物事を捉えることができる。

<カリキュラムポリシー>

専攻科（創造システム工学専攻）では、ディプロマポリシーに掲げた能力の育成を目的に、以下のカリキュラムを編成する。

1. 専攻科目の応用力、知識を融合・複合する力を身につける科目を配置する。
2. 他者と協働できるコミュニケーション能力を身につける科目を配置する。
3. グローバルな視点で物事を見る力を身につける科目を配置する。

これらの科目群に係る単位修得の認定は、各学期の試験の成績、提出物、出席状況及び学習態度等を総合し、以下の区分により評価する。

S (100～90点) 秀 A (89～80点) 優 B (79～70点) 良 C (69～60点) 可
F (59～0点) 不可

<アドミッションポリシー>

専攻科（創造システム工学専攻）では、以下に掲げるような人材を求める。

1. 専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけ、複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人
2. 基礎的なコミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
3. 技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与することに意欲を持つ人

入学者の選抜は、以下の3つの方法で行う。

【推薦による選抜】

本校への入学意思が固く、志望するコースに対する適性や興味・関心の強い志願者（志願動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、提出書類に基づいて全ての要素を総合的に評価して選抜を行う。

【学力検査による選抜】

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、学力検査により選抜を行う。

【社会人特別選抜】

本校で行われている研究・教育活動に興味がある志願者に対し、社会人の経験を活かし、専攻科での見聞を培うため、本選抜を実施する。そのため、面接（アドミッションポリシーに従う質問）及び専門分野における口頭試問により選抜を行う。

機械システム工学科

機械工学は、コンピュータ部品のようなミクロな世界からロボット・自動車・航空宇宙まであらゆる産業のものづくりの中心となる重要な学問分野です。これら先端技術の各分野で多くの機械工学技術者が、設計・開発・研究・製造の分野で活躍しています。

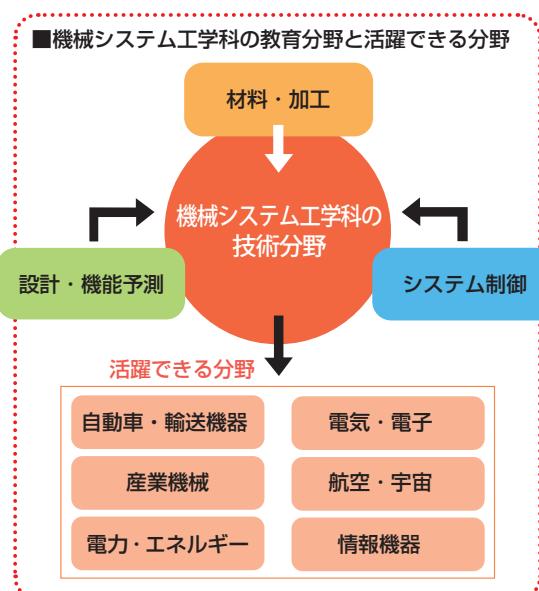
本学科では、ものづくりを支え、創造力の高い実践的技術者の育成を目指しています。本学科の教育課程は、従来からある機械工学の各分野を、機械力学・材料力学・熱工学・流体工学を中心とした基礎科目群、設計を中心とした機械設計群、制御とメカトロニクスを中心としたシステム制御群、実習・実験を中心とした共通群に再構成し、ものの設計・生産・開発・創造に必要な知識と技術を統合した教育及び機器設計・実習・実験などの自己学習を重視した教育を行います。



機械システム工学実習Ⅱ（2年）



専攻科実験（専攻科2年）



■ 教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教 授	博士（工学）	安里 健太郎	専門分野：制御工学、ロバスト制御、ソフトコンピューティング 1. 介護・看護に関するサポート機器の研究開発 2. 論理的思考力育成を目指した科学技術教材の研究開発 3. システムの低次元化に関する研究
教 授	博士（工学）	武村 史朗	専門分野：ロボティクス、制御工学 1. 海中ロボットの操作に関する研究 2. ロボット技術を利用した地域課題への応用
教 授	博士（工学）	比嘉 吉一	専門分野：材料力学、計算固体力学、マルチフィジックス 1. マルチスケール計算固体力学関連分野の研究 2. マルチフィジックス現象に関する数値シミュレーションに関する研究 3. 金属結晶欠陥場の3次元可視化に関する研究
教 授	博士（工学）	眞喜志 治	専門分野：熱工学 1. レーザ加工に伴う熱現象に関する研究 2. マイクロチャンネル内の気液二相流に関する研究
教 授	博士（工学）	眞喜志 隆	専門分野：表面改質、機械材料 1. 金属材料の表面改質に関する研究 2. 表面改質と疲労強度に関する研究
教 授	博士（工学）	山城 光	専門分野：熱工学、熱流体力学 1. 有機・無機水素貯蔵材料の研究 2. 炭素繊維触媒界面における有機水滴の熱化学的相互作用に関する研究 3. 膜沸騰蒸気膜の安定性と固液接触機構
准教授	博士（工学）	下嶋 賢	専門分野：加工学、計測工学 1. 機械システムの高精度化 2. 加工現象の解析
准教授	博士（工学）	津村 卓也	専門分野：溶接・接合、プラズマ処理・レーザ加工・表面処理 1. 摩擦発熱を利用した金属材料の各種固相接合法に関する研究 2. 新素材・異種材料の溶接・接合に関する研究 3. 各種熱源による金属材料の表面処理および切断に関する研究
准教授	博士（工学）	森澤 征一郎	専門分野：数値流体力学、航空力学、データマイニング、多目的最適化 1. 新形態将来旅客機の空力設計に関する研究 2. Roadable Aircraft の概念設計とその実現可能性の検討 3. データ探査や最適化の技術開発とその応用に関する研究
講 師	博士（工学）	赤嶺 宗子	専門分野：材料工学・セラミックス材料・複合材料 1. Mie 理論に基づく輻射断熱材の研究 2. セラミックス基複合材料の物性の解析

■ 機械システム工学科 教育課程（令和6年度入学生）

必修	授業科目	単位数	区分	学年別配当					備考	
				1年		2年		3年		
				単位	期間	単位	期間	単位	期間	
全学科共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	通					
	創造演習	2	演習		2	通				
	産業創造セミナー	2	講義・演習			2	通			
	インターンシップ	3	実習					3	通	
	情報技術の基礎Ⅰ	2	講義	2	通					
	情報技術の基礎Ⅱ	2	講義		2	通				
	プログラミングⅠ	2	講義・演習	2	通					
	プログラミングⅡ	2	講義・演習		2	通				
基礎科目群	応用プログラミング	2	講義・演習			2	通			
	応用数学Ⅰ	2	講義				2	半		学修単位
	応用数学Ⅱ	2	講義					2	半	学修単位
	材料力学Ⅰ	2	講義・演習			2	半			学修単位
	材料力学Ⅱ	2	講義・演習			2	半			学修単位
	材料力学Ⅲ	2	講義・演習				2	半		学修単位
	流体力学Ⅰ	2	講義				2	半		学修単位
	流体力学Ⅱ	2	講義				2	半		学修単位
	機械力学Ⅰ	2	講義				2	半		学修単位
	機械力学Ⅱ	2	講義・演習				2	半		学修単位
	熱力学Ⅰ	2	講義・演習				2	半		学修単位
	熱力学Ⅱ	2	講義・演習					2	半	学修単位
機械設計群	機械製図学Ⅰ	1	講義・実習	1	半					
	機械製図学Ⅱ	1	講義・実習		1	半				
	機械設計学	1	講義・実習			1	半			
	総合構造設計	2	講義・実習				2	半		学修単位
	CAD・CAMⅠ	2	演習			2	通			
	CAD・CAMⅡ	2	演習				2	半		学修単位
	機械材料Ⅰ	1	講義		1	半				
	機械材料Ⅱ	1	講義			1	半			
	材料科学	2	講義				2	半		学修単位
	伝熱工学	2	講義					2	半	学修単位
システム制御群	ロボット制御概論	1	講義	1	半					
	電気・電子工学	2	講義・演習			2	通			
	制御工学	2	講義				2	半		学修単位
	メカトロニクス工学Ⅰ	2	講義					2	半	学修単位
	計測工学	2	講義					2	半	学修単位
共通群	機械システム工学実習Ⅰ	3	講義・実習	3	通					
	機械システム工学実習Ⅱ	4	講義・実習		4	通				
	機械システム工学実習Ⅲ	2	講義・実習			2	半			
	機械システム工学実験Ⅰ	4	実験				4	通		
	機械システム工学実験Ⅱ	2	実験					2	半	
	機械システム工学演習	2	講義・演習				2	半		学修単位
	卒業研究	8	実験						8	通
選択	修得単位計	90		11	12	16	31	20		
	基礎科目群	応用物理	1	講義				1	半	
機械設計群	化学Ⅱ	1	講義				1	半		
	C A E	1	講義					1	半	
システム制御群	エネルギー工学	1	講義					1	半	
	メカトロニクス工学Ⅱ	1	講義					1	半	
	システム制御論	1	講義					1	半	
共通群	知能制御論	1	講義				1	半		
	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に単位取得可(最大5単位)
開設単位計	開設単位計	12		1	1	1	4	5		
	修得単位計	0		0	0	0	0	0		
開設単位合計		102		12	13	17	35	25		
修得単位合計		90		11	12	16	31	20		

* 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

情報通信システム工学科

タブレット PC、インターネット、スマートフォンや携帯端末などの情報通信技術の急速な進歩、普及は社会に大きな影響を与えています。この情報通信技術を支えているのが、コンピュータ、ネットワーク、通信、制御、半導体集積回路などの技術を修得したハードウェア・ソフトウェアに精通した実践的創造的技術者です。

本学科では、情報通信分野で活躍できる実践的創造的技術者の育成を目指し、次の技術分野の基礎を学びます。

- (1) コンピュータアーキテクチャ
- (2) プログラミング
- (3) 集積回路
- (4) 信号処理
- (5) 光・無線通信技術
- (6) ネットワーク
- (7) オペレーティングシステム
- (8) アルゴリズムとデータ構造
- (9) 組込みシステム

情報通信分野における実践的創造的技術者の育成 (ハードウェア・ソフトウェアに精通した技術者を目指す)



教員 (現員)

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教 授	博士（工学）	神里 志穂子	専門分野：感性工学、運動計測、データ解析 1. 観察者のスキルと注視情報を考慮した舞踊動作相承システムの構築 2. 動作解析によるスキルの定量化と感性情報の抽出に関する研究
教 授	博士（工学）	金城 伊智子	専門分野：意思決定、ファジィ解析、観光情報 1. 意思決定支援システムの構築 2. ファジィ理論を用いた観光情報システムに関する研究
教 授	博士（工学）	高良 秀彦	専門分野：光通信、光計測 1. 光通信システムに関する研究 2. 光通信品質測定技術、レーザー光安全に関する研究
教 授	博士（工学）	谷藤 正一	専門分野：マイクロ波・ミリ波工学、無線通信工学 1. 高周波 Si-CMOS RF デバイスの研究 2. 3D-SiP 技術を用いた小形・高密度 RF モジュールの研究 3. 水中可視光通信の研究
教 授	博士（情報科学）	中平 勝也	専門分野：無線通信工学、情報工学 1. 衛星やドローンなどを用いた各種無線通信システムのアクセス制御に関する研究 2. ヘテロジニアス無線ネットワーク環境下における干渉低減方式や無線リソースの適応制御の研究
教 授	博士（工学）	山田 親稔	専門分野：計算機工学、論理設計、形式的設計検証 1. システム LSI 設計・機能検証に関する研究 2. LSI 設計教育に関する研究
教 授	博士（工学）	藤井 知	専門分野：マイクロ波工学、電子デバイス 1. カーボンニュートラル社会の実現を目指したマイクロ波工学の研究 2. 量子コンピュータの基礎研究 3. 次世代半導体プロセス技術の研究
准教授	博士（工学）	亀濱 博紀	専門分野：半導体工学、電子集積回路 1. SOI 技術を用いたX線検出器の開発 2. IoT を活用したセンシングシステムや高生産性の研究
准教授	博士（工学）	比嘉 修	専門分野：電気電子工学、パルスパワー工学 1. 衝撃波応用技術 2. 高電圧装置設計・開発、高速度カメラを用いた流体可視化技術
特命准教授	博士（工学）	范 一平	専門分野：情報工学 1. ファジィ理論による中国語漢字発音から日本語漢字音読みへの推測 2. Web顧客の購買履歴や販売データの分析
講 師	博士（工学）	宮城 桂	専門分野：計算機工学、VLSI 設計 1. 省電力 VLSI の実現法に関する研究 2. ディペンダブル VLSI の実現法に関する研究

■ 情報通信システム工学科 教育課程（令和6年度入学生）

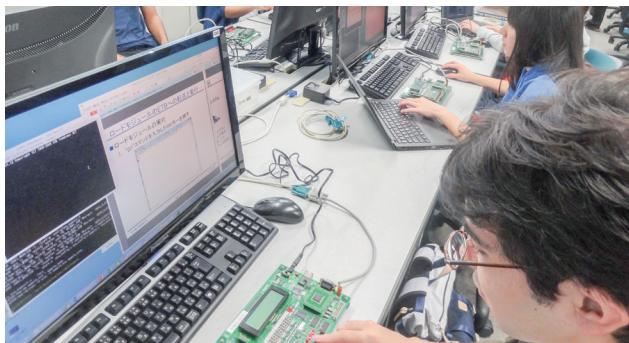
必 修	選 択	授業科目	単位数	区分	学年別配当					備 考	
					1年		2年		3年		
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	
全学科共通専門科目		沖縄高専セミナー	2	講義	2	通					
		創造演習	2	演習		2	通				
		産業創造セミナー	2	講義・実習			2	通			
		インターンシップ	3	実習					3	通	
		情報技術の基礎Ⅰ	2	講義	2	通					
		情報技術の基礎Ⅱ	2	講義		2	通				
		プログラミングⅠ	2	講義	2	通					
		プログラミングⅡ	2	講義		2	通				
基礎科目群		離散数学	2	講義					2	半	学修単位
		応用数学	2	講義					2	半	学修単位
		電磁気学Ⅰ	2	講義					2	半	学修単位
		計測工学	2	講義			2	半			学修単位
		情報通信工学実験基礎	2	実験	2	半					
		情報通信工学実験Ⅰ	2	実験		2	通				
		情報通信工学実験Ⅱ	2	実験			2	通			
		情報通信工学実験Ⅲ	2	実験					2	通	
情報通信工学群		ネットワークとセキュリティ	2	講義			2	通			
		信号処理	2	講義					2	半	学修単位
		情報理論	2	講義					2	半	学修単位
		通信工学Ⅰ	2	講義					2	半	学修単位
		通信工学Ⅱ	2	講義					2	半	学修単位
電気・電子回路工学群		半導体工学	1	講義			1	半			
		電気回路Ⅰ	2	講義		2	通				
		電気回路Ⅱ	2	講義			2	通			
		アナログ電子回路	2	講義			2	通			
		デジタル電子回路	2	講義			2	通			
		電子回路演習	2	演習					2	半	学修単位
		集積回路工学	4	講義					4	通	学修単位
計算機システム群		計算機工学Ⅰ	2	講義	2	通					
		計算機工学Ⅱ	2	講義		2	通				
		コンピュータアーキテクチャ	2	講義			2	半			学修単位
		制御工学	2	講義					2	半	学修単位
ソフトウェア群		ソフトウェア演習	1	演習	1	半					
		応用プログラミングⅠ	2	演習			2	半			学修単位
		応用プログラミングⅡ	2	演習					2	半	学修単位
		応用プログラミングⅢ	2	演習					2	半	学修単位
		データベース	2	講義					2	半	学修単位
		オペレーティングシステム	2	講義					2	半	学修単位
共通群		情報通信総合演習	4	演習					4	通	学修単位
		卒業研究	8	実験					8	通	
修 得 単 位 計			89		11	12	19	23	24		
選 択	基礎科目群	化学Ⅱ	1	講義				1	半		
		応用物理	1	講義				1	半		
		電磁気学Ⅱ	1	講義					1	半	
	情報通信工学群	通信法規	1	講義					1	半	
		人工知能とミドルウェア	1	講義					1	半	
	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に単位取得可(最大5単位)。
開 設 单 位 計			10		1	1	1	4	3		
修 得 单 位 計			1		0	0	0		1		4年生もしくは5年生で1単位以上履修すること。
開 設 单 位 合 計			99		12	13	20	27	27		
修 得 单 位 合 計			90		11	12	19	24	24		

* 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

メディア情報工学科

物質、エネルギーと並んで、情報は人間活動にとって大切な要素です。私達は情報を音声、文字、画像など色々なメディア（媒体）で表現して人に伝えています。情報処理技術と通信技術の発展と融合のおかげで、情報のデジタル化を通して異なるメディアを統合的に扱うこと、そして、膨大な情報を世界規模で伝達共有することが可能になりました。本学科では、様々なメディア関連産業を支える技術者の育成をはかるため、以下の教育を行います。

- (1) 情報を音声、画像、CG など種々のメディアで表現し、コンピュータを用いてデジタル加工するコンテンツ制作教育
- (2) アルゴリズム、データ構造、プログラミング並びに構成や動作原理などマルチメディア情報を処理するコンピュータシステムに関する教育
- (3) インターネット、モバイル通信および情報セキュリティを含むネットワーク技術に関する教育



専門科目の授業風景



専門科目の授業風景

■ 教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
特任教授	修士（工学）	伊波 靖	専門分野：情報セキュリティ、音声言語処理 1. サーバをセキュアにするための要塞化に関する設定 2. セキュリティポリシー策定に関するアドバイス 3. 不正アクセス発生時におけるログ解析等のインシデントレスポンス
教 授	博士（学術）	玉城 龍洋	専門分野：交通工学、社会科学、進化的計算、プログラミング教育 1. 交通流および交通ネットワークの解析 2. 歩行者行動モデルの開発 3. プログラミング教育手法の開発
教 授	博士（工学）	タンスリヤポン スリヨン	専門分野：画像処理・認識・圧縮、ディジタル信号処理 1. 高速画像処理・認識ソフトウェアの開発 2. 遠隔モニタリングのための映像圧縮及び通信方式の研究 3. ビデオセンシングによる防犯・防災システムの研究
教 授	修士（工学）	與那嶺 尚弘	専門分野：計算機工学、工学教育、福祉工学 1. 失語症患者および発達障碍児向け言語機能訓練支援システムの構築 2. 介護福祉士・保育士向けヒヤリハット防止教材作成支援システムの開発 3. ネットワークを用いた学習支援システムの開発
准教授	博士（工学）	金城 篤史	専門分野：情報工学、情報システム、ソフトウェア工学、情報ネットワーク、海洋音響学 1. 情報システムの構築・管理・運用に関する研究 2. 情報工学の農業や水産への応用 3. 複数センサーによるセンシング技術の開発に関する研究
准教授	博士（知識科学）	佐藤 尚	専門分野：複雑系、人工生命、人工知能、進化言語学、進化論的計算 1. 生命・認知・言語・社会・経済などの自律的に発展/進化する「複雑系」に関する構成論的研究 2. 複雑系における創発現象の解析
講 師	博士（工学）	仲間 祐貴	専門分野：情報工学、ファシリティマネジメント 1. ネットワーク管理業務における情報可視化に関する研究 2. 3Dモデルを活用した戦略的な施設維持管理に関する研究 3. ピックデータの情報表現・利活用に関する研究
助 教	修士（理学）	當間 栄作	専門分野：画像処理、画像解析、ソフトコンピューティング 1. 眼底画像解析システムの開発に関する研究 2. 眼底動画像からの動脈硬化診断に関する研究
助 教	博士（工学）	比嘉 聖	専門分野：情報工学、ヒューマンインタフェース、データ解析 1. 視線制御型電動車いすの開発 2. 視覚的意図推定モデルに関する研究

■ メディア情報工学科 (令和6年度入学生)

必修	授業科目	単位数	区分	学年別配当					備考	
				1年		2年		3年		
				単位	期間	単位	期間	単位	期間	
全学科共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義・演習	2	通					
	創造演習	2	演習		2	通				
	産業創造セミナー	2	講義・演習			2	通			
	インターンシップ	3	実習					3	通	
	情報技術の基礎Ⅰ	2	講義	2	通					
	情報技術の基礎Ⅱ	2	講義		2	通				
	プログラミングⅠ	2	講義・演習	2	通					
	プログラミングⅡ	2	講義・演習		2	通				
基礎科目群	離散数学	2	講義			2	通			
	応用数学	2	講義					2	半	学修単位
	情報理論	2	講義						2	半
	メディア情報工学セミナー	2	講義	2	通					
	コンピュータアーキテクチャ	2	講義			2	通			
	情報システム	2	講義					2	半	学修単位
メディア・コンテンツ群	メディアコンテンツⅠ	3	講義・演習	3	通					
	コンピュータグラフィックスⅠ	2	講義・演習		2	通				
	メディアコンテンツⅡ	2	講義			2	通			
	コンピュータグラフィックスⅡ	2	講義					2	半	学修単位
	メディアコンテンツⅢ	2	講義						2	半
ソフトウェア群	プログラミングⅢ	2	講義・演習			2	通			
	プログラミングⅣ	2	講義・演習				2	半		学修単位
	アルゴリズムとデータ構造	2	講義				2	半		学修単位
	データベース	2	講義				2	半		学修単位
	ソフトウェア工学	2	講義					2	半	学修単位
	オペレーティングシステム	2	講義					2	半	学修単位
	人工知能	2	講義・演習					2	半	学修単位
ネットワーク群	コンピュータネットワークⅠ	2	講義・演習		2	通				
	コンピュータネットワークⅡ	2	講義・演習			2	通			
	コンピュータネットワークⅢ	2	講義				2	半		学修単位
	情報セキュリティⅠ	2	講義				2	半		学修単位
	情報セキュリティⅡ	2	講義・演習					2	半	学修単位
ハードウェア群	デジタル回路	2	講義				2	半		学修単位
	デジタルシステム設計	2	講義					2	半	学修単位
共通群	メディア情報工学実験Ⅰ	2	実験		2	通				
	メディア情報工学実験Ⅱ	4	実験			4	通			
	メディア情報工学実験Ⅲ	4	実験				4	通		
	卒業研究	8	実験						8	通
修得単位計		86		11	12	16	25	22		
選択	基礎科学群	応用物理	2	講義				2	半	学修単位
	I群	メディアコンテンツ応用	2	講義					2	半
	II群	組み込みソフトウェア	2	講義					2	半
	III群	信号処理とメディア通信	2	講義					2	半
	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通
	開設単位計	13		1	1	1	3	7		
	修得単位計	4		0	0	0	0	4		
開設単位合計		99		12	13	17	28	29		
修得単位合計		90		11	12	16	25	26		

* 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

* I群：メディア・コンテンツ群、II群：ソフトウェア群、III群：ネットワーク群

生物資源工学科

沖縄工業高等専門学校の立地条件の特長の一つは、海洋性に恵まれた亜熱帯性気候です。本学科では、これら亜熱帯性資源をはじめとした生物資源の実践的利用ができ、かつ環境に配慮した資源再利用に対応できる人材の育成を目指します。そこで、以下の教育課程により教育・研究を行ないます。

専門分野の授業科目は（1）生物化学工学群、（2）環境・微生物学群、（3）食品化学工学群の3群を軸に編成されています。

- (1) 生物化学工学群では、生物・化学系の授業科目により生命科学の基礎を充実します。さらにバイオテクノロジー系の授業科目により生物機能を物質生産に応用する実践的な能力を養います。
- (2) 環境・微生物学群では、微生物に関する知識の基礎と応用を学びます。その上で、技術者として環境に対してどのように配慮し、どのように行動するのか、基礎と実践的な手法を習得します。
- (3) 食品化学工学群では、食品成分について、その化学的性質・生理活性・分析手法の基礎と応用を学びます。また、食品成分の知識を踏まえて、新規な食品の開発と産業規模の食品製造の実践的能力を養います。



オープンキャンパス（名護：沖縄高専）



研修旅行（北海道：田中酒造）



コンテスト参加（新潟：長岡技科大）

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	博士（医学）	池松 真也	専門分野：生化学、がんの生物学、診断薬開発、長寿研究 1. 天然物由来生理活性物質の評価系構築およびその物質を主体とした商品の開発 2. 新規な成長因子「ミッドカイン」の医薬分野への応用 3. 種々の標的タンパク質の抗体を利用した診断薬開発 4. バイオインフォマティクスを活用した腸内フローラ研究
教授	博士（学術）	伊東 昌章	専門分野：タンパク質工学、酵素化学 1. 昆虫無細胞タンパク質合成系の高度化に関する研究 2. シマグラおよびシルクの機能性に関する研究 3. 有用酵素の機能解析、および応用に関する研究
教授	博士（学術）	平良 淳誠	専門分野：生物有機化学、生物資源化学、酸化ストレスの生命科学 1. 生物資源の探索と機能性機構解明に関する研究 2. 生物資源の薬用食品、薬用化粧品の利用に関する研究
教授	博士（工学）	濱田 泰輔	専門分野：物理化学、光化学、有機化学 1. 天然物色素などの化学反応を含む事項について、特に光と色が関わる事柄に関する事項
教授	博士（理学）	田中 博	専門分野：食品製造学、微生物学 1. 食成分の機能性開発と新規な食素材の開発 2. 新規な乳酸菌の探索と食品への利用
教授	博士（理学）	磯村 尚子	専門分野：分子生態学、繁殖生態学 1. 海洋生物における繁殖様式と集団維持・進化の関係性の解明 2. 海洋生物における遺伝的集団構造の解明
嘱託准教授	博士（農学）	三宮 一宰	専門分野：植物分子生物学 1. 有用物質を蓄積させた組換え作物の開発 2. 耐暑性・耐乾性・耐塩性・耐虫性・耐病性を向上させた組換え作物の開発
准教授	博士（農学）	田邊 俊朗	専門分野：生物資源利用科学、生物資源化学、食糧化学 1. キチン・キトサンからの生理活性物質生産、関連酵素の新規探索 2. リグノセルロース系バイオマスの前処理技術開発
特命准教授	博士（工学）	沖田 紀子	専門分野：微生物学、分子生物学 1. 海洋性ゴム分解菌の探索 2. 円偏光が微細藻類に与える影響に関する調査
特命准教授	博士（農学）	砂田 亜津子	専門分野：微生物学、分子生物学 1. 抗生物質生産菌抗生物質由来の抗生物質修飾酵素を用いた抗MRSA剤アルベカシンの耐性菌出現に関する予測研究 2. 抗生物質生産菌由来の抗生物質修飾酵素を用いた耐性菌の報告のないアミノグリコシドに対する耐性菌出現に関する予測研究
講師	博士（理学）	萩野 航	専門分野：系統分類学、ダニ学、生態学 1. 日本産サザナダニ類の記載分類学 2. 土壤動物を活用した環境指標の開発 3. 地域の生物資源を生かした教育法の開発
助教	博士（学術）	石田 純	専門分野：海洋生物学、分子生物学、復元生態学 1. 海洋生物の熱ストレスへの応答：順化とその種内変異の工学 2. 海洋生物と褐虫藻の共生における温暖化の影響の解明 3. サンゴ礁の復元生態学、飼育実験の研究
特命助教	博士（工学）	儀武 菜美子	専門分野：環境微生物学、遺伝子工学 1. 微生物による環境汚染物質（芳香族化合物および高分子化合物）の分解機構と転写制御機構の解明 2. 海洋および土壤環境中における有用微生物の探索、微生物群集構造解析

■ 生物資源工学科 教育課程（令和6年度入学生）

授 業 科 目	単位数	区 分	学年別配当					備 考	
			1年		2年		3年		
			単位	期間	単位	期間	単位	期間	
全学科共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	通				
	創造演習	2	演習		2	通			
	産業創造セミナー	2	演習			2	通		
	インターンシップ	3	実習					3	通
	情報技術の基礎Ⅰ	2	講義	2	通				
	情報技術の基礎Ⅱ	2	講義		2	通			
	プログラミングⅠ	2	演習	2	通				
	プログラミングⅡ	2	演習		2	通			
生物化学工学群	バイオテクノロジー基礎実験	4	実験	4	通				
	有機化学Ⅰ	2	講義		2	通			
	有機化学Ⅱ	2	講義			2	通		
	生化学	2	講義			2	通		
	生化学実験	2	実験			2	通		
	生理学	2	講義			2	通		
	バイオインフォマティクスⅠ	2	講義				2	半	
	バイオインフォマティクスⅡ	2	講義					2	半
	分子生物学	2	講義					2	半
	遺伝子工学	2	講義				2	半	
	遺伝子工学実験	2	実験				2	半	
	生物工学	2	講義				2	半	
	生物工学実験	2	実験				2	半	
	細胞生物学	2	講義					2	半
	生物物理学	2	講義					2	半
環境・微生物学群	微生物学基礎	2	講義		2	通			
	微生物学基礎実験	2	実験		2	通			
	微生物学	2	講義			2	通		
	環境生物学	2	講義			2	通		
	環境生物学実験	2	実験			2	通		
	環境生態学	2	講義				2	半	
	環境工学	2	講義					2	半
食品化学工学群	食品化学基礎	2	講義				2	半	
	発酵学	2	演習				2	半	
	産業化学	2	演習			2	通		
	香粧品科学	2	講義					2	半
	プロセス工学Ⅰ	2	講義					2	半
	プロセス工学Ⅱ	2	講義					2	半
共通群	物理・化学基礎実験	1	実験	1	半				
	物理化学基礎	2	講義			2	通		
	プレゼンテーション	2	演習				2	半	
	生物資源ゼミナール	2	実習					2	通
	卒業研究	8	実験					8	通
修 得 単 位 計			90		11	12	20	21	26
選 択	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1
	開 設 单 位 計		5		1	1	1	1	
	修 得 单 位 計		0		0	0	0	0	
開 設 单 位 合 計			95		12	13	21	22	27
修 得 单 位 合 計			90		11	12	20	21	26

* 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

総合科学科

総合科学科では、5年一貫の教育課程の中で一般科目を通して社会人として必要な知識や教養を身につけます。また、専門科目と緊密に連携し、社会の急速な変化に対応できる技術者として各学科に共通な学問の基礎を養います。そのため、高校と大学間の授業内容の重複を避け、5年間を通して効果的なカリキュラムを編成します。国際化社会に対応するため外国語教育を重視し、特に英語では高度な英語力を養うために、「読む」「聞く」「書く」「話す」の基礎技能の鍛錬から始まり、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力の伸長を図ります。国語教育においては、論理的に文章を分析し、自らの考えを表現できる力を養うとともに、国際的に活躍する技術者に必要なコミュニケーション能力を育成します。専門科目につながる自然科学や数学の授業は、理論を追求するだけでなく、基礎理論を工学的に発展させることのできる応用力も育成します。



国語Iの授業風景



英語の授業風景1



英語の授業風景2



数学の授業風景

■ 教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教 授	博士（理学）	小池 寿俊	環論
教 授	博士（理学）	成田 誠	一般相対論、非線型偏微分方程式
教 授	博士（理学）	山本 寛	複素解析学
嘱託 准教授	博士（学術）	青木 久美	哲学、心理学
准教授	修士（社会学）	カーマン マコア	家族学
准教授	博士（理学）	木村 和雄	地理学、地形学
准教授	博士（文学）	澤井 万七美	芸能史、演劇学
准教授	博士（文学）	下郡 剛	日本中世史、近世琉球史、古文書学
准教授	博士（理学）	藤本 教寛	素粒子論
准教授	博士（理学）	吉居 啓輔	数学基礎論
准教授	修士（体育学）	和多野 大	スポーツ心理学、スポーツ科学
特命 准教授	博士（学術） 修士（国際関係学）	真喜屋 美樹	地域研究（内発的発展、地域開発、都市政策、地方自治）
講 師	博士（文学）	片山 鮎子	日本語学（中世）
講 師	博士（言語学）	崎原 正志	言語学、琉球語学、日本語学
講 師	修士（スポーツ学）	島尻 真理子	スポーツ科学、コーチング、ハンドボール
講 師	修士（人類学）	山内 祥之	文化人類学
講 師	修士（カウンセリング学）	吉井 りさ	日英スピーチ・プレゼンテーション教授法

■ 一般科目 教育課程（令和6年度入学生）

授業科目		単位数	区分	学年別配当					備考	
				1年		2年		3年		
				単位	期間	単位	期間	単位	期間	
国語	国語Ⅰ	2	講義	2	通					
	国語Ⅱ	2	講義			2	通			
	国語Ⅲ	2	講義					2	通	
	文学概論	2	講義							学修単位
	日本語表現	2	講義							学修単位
英語	English Comprehension I	2	演習	2	通					
	English Comprehension II	2	演習			2	通			
	English Comprehension III	2	演習					2	通	
	English Comprehension IV	2	演習							学修単位
	English Communication I	1	演習	1	半					
	English Communication II	1	演習			1	半			
	English Skills I	2	演習	2	通					
	English Skills II	2	演習			2	通			
	English Skills III	2	演習					2	通	
	English Skills IV	2	演習							学修単位
	English Skills V	2	演習							学修単位
	英語演習	2	演習						2	半
必修	歴史学概論	2	講義			2	通			
	地理学概論	2	講義					2	通	
	地域文化論	2	講義						2	半
	技術者倫理	2	講義							学修単位
	現代社会	1	講義	1	半					
	基礎数学Ⅰ	4	講義	4	通					
	基礎数学Ⅱ	4	講義	4	通					
	微積分Ⅰ	4	講義			4	通			
	微積分Ⅱ	4	講義					4	通	
	線形代数	2	講義			2	通			
自然科学	確率・統計	2	講義						2	半
	物理Ⅰ	2	講義	2	通					
	物理Ⅱ	2	講義			2	通			
	化学	2	講義・演習	2	通					
	生物と環境	2	講義			2	通			生物・環境分野
健康科学	地球科学概論	2	講義						2	半
	スポーツ実技Ⅰ	2	実技	2	通					
	スポーツ実技Ⅱ	2	実技			2	通			
	スポーツ実技Ⅲ	1	実技					1	半	
	健康科学	1	演習・講義					1	半	
修得単位計				77		22	21	14	16	4
選択	日本語Ⅰ※	2	講義・演習					2	通	
	日本語Ⅱ※	2	講義・演習						2	半
	日本事情Ⅰ※	2	講義・演習					2	通	
	日本事情Ⅱ※	2	講義・演習						2	半
	開設単位計	0		0	0	0	0	0	0	本校以外の教育施設に於ける学修単位および資格試験は含まない
	修得単位計	0		0	0	0	0	0	0	
開設単位合計				77		22	21	14	16	4
修得単位合計				77		22	21	14	16	4

※ 特別学修一般として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)

創造システム工学専攻

沖縄高専の専攻科は、教育理念、教育目的、育成する技術者像にもとづき、それぞれの学位申請区分となる専門分野（機械工学、電気電子工学、情報工学、生物工学）において、深い専門知識を修得し、さらには異なる分野の知識も修得し、融合・複合化の進んでいる産業界において、実践性・創造性を兼ね備えた複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたりーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力を持ち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指し、専攻科名を「創造システム工学専攻」としています。本科との科目関連と学位取得専門区分に対応するように、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの4コースから構成されています。この4コースの専門性を融合・複合するための実験科目や国内外の長期インターンシップ等の特徴的なカリキュラムを策定しています。授業で扱う内容には大学院修士課程と同等レベルの高い専門技術教育も含まれており、選択科目として所属コース以外の科目を履修することも可能であり、学生の希望に応じた幅広い分野の学修機会が得られます。また、課題発見から議論、提案、発展、解決のプロセスを学ぶエンジニアリングデザイン教育（Engineering Design Education）を実施していて、実際のプロジェクト遂行（PBL 教育）を踏まえ、設計や製造に限らず、工程管理、予算管理などを実施し、これらの成果報告を行うことで実践力を養います。

【専攻科の入学定員・収容定員】

専攻名	入学定員	収容定員
創造システム工学専攻	24	48

■ 創造システム工学専攻 教育課程（令和6年度入学生）

コース	種別	必修・選択の別	科目名	単位数	区分	学年別配当単位数		備考
						1年	2年	
						前期	後期	
一般科目	必修	実用英語Ⅰ	2	講義	2			
		実用英語Ⅱ	2	講義		2		
		特別研究ⅠA	3	実験	3			
		特別研究Ⅱ	8	実験			8	
		専攻科実験	4	実験			4	
		創造システム工学実験	4	実験	4			
	修得単位計		23			11	12	
	選択	日琉交流史	2	講義		2		※1年又は2年で修得可
		地球科学特論	2	講義		2		
		琉球諸語入門	2	講義	2			
		English Business Communication	2	講義		2		
		スポーツ科学特論	2	講義			2	
全コース	一般科目	創造システム工学セミナー一般	2	講義	2		2	※学内で開催する教育技術講演会 ※1年又は2年で修得可
		修得単位計	4				4	
		特別研究ⅠB	3	実験		3		
		長期インターンシップ	4~12	実習			4~12	2年次選択可 1か月：4単位 2か月：8単位 3か月：12単位
		物理学特論	2	講義		2		
	専門共通科目	数学通論	2	講義	2			
		応用解析学	2	講義			2	
		応用物理特論	2	講義	2			
		物理化学	2	講義			2	
		バイオテクノロジー	2	講義		2		
	選択	バイオマス利用工学	2	講義		2		
		品質・安全管理メント特論	2	講義		2		
		経営工学	2	講義			2	
		グローバルインターンシップ	2	実習			2	1年次選択可
		創造システム工学セミナー専門	2~8	講義			2~8	2単位：30時間 4単位：60時間 6単位：90時間 8単位：120時間以上 ※連携企業・提携校で実施する講義
	修得単位計		15				15	
	修得単位計		42				42	
	開設単位計		78				78	

種別	コース	必修・選択の別	科 目 名	単位数	区分	学年別配当単位数		備 考		
						1 年				
						前 期	後 期	前 期	後 期	
機械システム工学コース	機械システム工学コース	材料学特論	2	講義	2					
		溶接・接合工学	2	講義			2			
	電子通信システム工学コース	連続体力学	2	講義	2					
		材料強度学特論	2	講義			2			
		数値シミュレーションⅠ	2	講義		2				
		数値シミュレーションⅡ	2	講義			2			
		生産工学特論	2	講義		2				
		制御系構成論	2	講義		2				
		表面工学	2	講義				2		
		輸送現象論	2	講義	2					
		流体工学特論	2	講義	2					
		熱機関工学	2	講義	2					
		ロボット工学	2	講義				2		
		技術管理概論	2	講義				2		
		シミュレーション工学	2	講義		2				
		数理計画法	2	講義		2				
専門科目	情報工学コース	生体情報工学	2	講義			2			
		数値解析論	2	講義			2			
		信号処理特論	2	講義		2				
		アルゴリズム理論	2	講義				2		
		マイクロ波工学	2	講義	2					
		システムLSI設計工学	2	講義	2					
		光電子デバイス	2	講義	2					
		半導体物性工学	2	講義		2				
		弹性波工学	2	講義			2			
		電子機器工学	2	講義				2		
		知能システム特論	2	講義			2			
		LSIプロセス工学	2	講義	2					
		情報数学	2	講義	2					
		メディアコンテンツ特論	2	講義		2				
生物資源工学コース	生物資源工学コース	組込システム特論	2	講義	2					
		データ工学	2	講義		2				
		情報セキュリティ特論	2	講義			2			
		ソフトウェア開発特論	2	講義				2		
		計算機科学特論	2	講義	2					
		ロボティクス	2	講義			2			
		ヒューマンインターフェイス	2	講義			2			
		ネットワーク特論	2	講義		2				
		システム制御工学	2	講義	2					
		画像処理特論	2	講義		2				
		デジタルフォレンジック	2	講義			2			
		プログラミング特論	2	講義			2			
選 択	選 択	資源生物機能形態学	2	講義	2					
		分子生物学Ⅱ	2	講義	2					
		植物工学	2	講義				2		
		無機化学	2	講義		2				
		代謝生化学	2	講義			2			
		応用微生物学	2	講義	2					
		酵素化学	2	講義	2					
		醸造学	2	講義		2				
		生物資源の機能性科学	2	講義			2			
		酸化ストレスの生命科学	2	講義		2				
		タンパク質資源利用学	2	講義			2			
		食品化学	2	講義		2				
		食品機能学	2	講義			2			
		他コースの選択科目							6単位まで認める	
選 択	選 択	航空工学Ⅰ	2	講義	2					
		航空工学Ⅱ	2	講義	2					
		航空工学Ⅲ	2	講義			2			
		航空工学Ⅳ	2	講義				2		
修 得 単 位 計				20		20				
開 設 单 位 計				118		68	50			
修 得 单 位 計				62		62				
開 設 单 位 計				196		196				

※ 本校以外の教育施設で修得した単位を認めることがある

特色のある教育

観光・地域共生デザインコース

最新情報は
こちらを
ご覧ください→

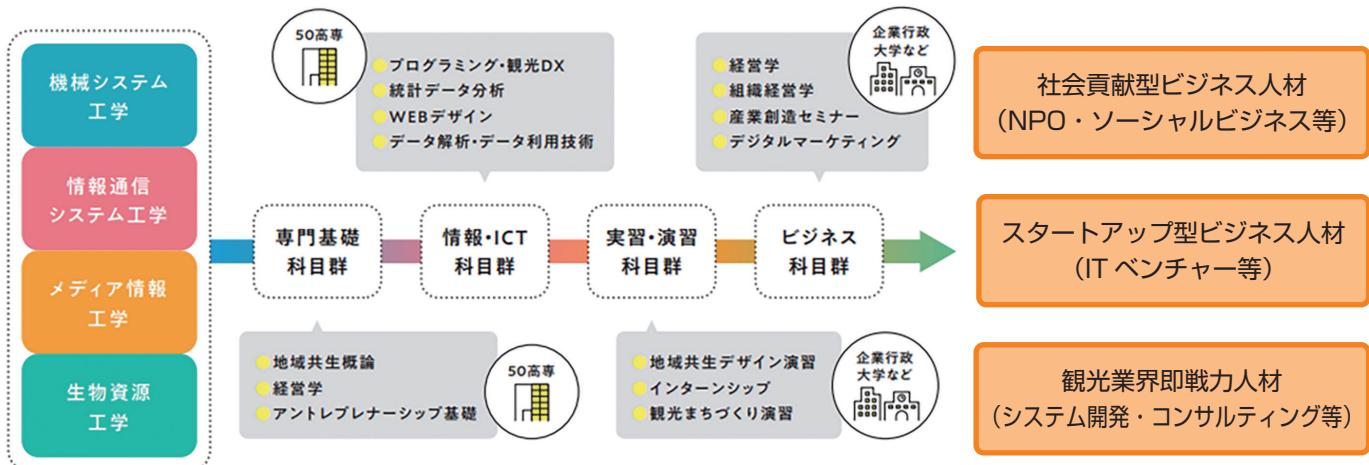


専門教育に加え、地域の事を考える教育をしっかりと行うことで、「新たな価値を創造できる人材」を育成します。

今、地域の経済発展と社会的課題解決に向け、柔軟な発想力と実践力を備えた若い人材が求められています。中でも、地域の強みを見出し、それを伸ばし、地域の発展に貢献するため、新たな価値を創造できる人材の輩出が、このコースに求められたミッションとなっています。観光・地域共生デザインコースでは、環境技術と情報処理技術を基礎とした工学系の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、観光資源開発や地域共生システムをデザインできる創造性豊かな人材を育成します。このコースを受講した学生は、自身の専門分野に地域共生デザイン力を組み合わせ、新しい付加価値を創造できる能力を身につけ、沖縄の地域の未来をデザインできるエンジニアを目指します。

○ 特色ある科目

数学的思考や情報処理能力と経営企画能力との統合を目指した科目を取り入れています。観光と地域共生システムを環境に調和させつつ構築できるような実践的・創造的技術者を育成します。



○ 地域共生実習

～沖縄の離島の現状を知り
課題を見つけて考える～



作り方：素材集め
ビーチクリーン

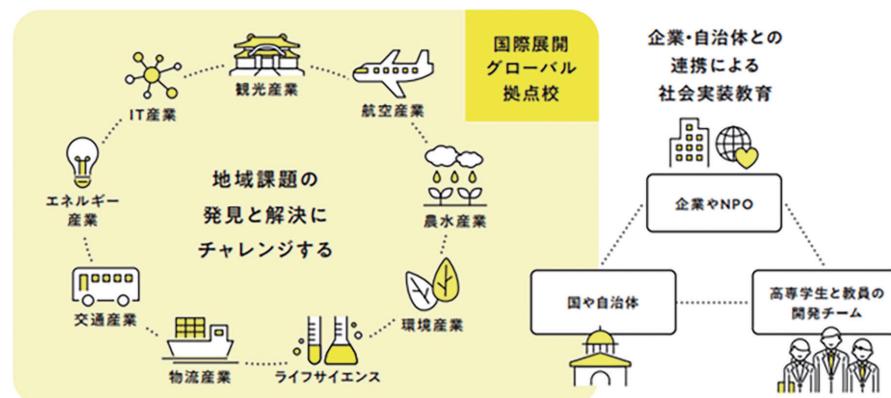
沖縄県うるま市津堅島に行き、ビーチクリーン活動や津堅島小中学生との交流会を行い、子ども達と一緒に海岸漂着物を利用したキャンドルを作成しました。

学生達は、島の自然や良さを残しつつ、島を活性化するための課題と向きあいました。これからも学校だけでなく、地域を学びのフィールドとして、地域の課題解決に取り組んでいきます。

○ 特色ある教育で身につく力

観光・地域共生デザインコースでは、民間の最先端の現場に立つ講師を招いた授業を取り入れたり、「社会のために何をつくるべきか?」を地域社会と共に考え、取り組む「社会実装教育」を行います。

- 身につく力
- ① 観光・地域共生の視点から、自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的に思考できる能力
 - ② 情報技術の基礎知識を備え、ハードウェアとソフトウェア両面から社会問題を解決できる基本技術力
 - ③ 経済と経営の基礎知識を理解し、統計やデータ解析を用いて地域課題の解決策をデザインできる能力
 - ④ 地域の自然・都市・交通を含めた環境の基礎知識を有し、新たなリソースを発見・提案できる基礎的企画力



航空技術者プログラム

最新情報は
こちらを
ご覧ください→



航空技術者プログラム

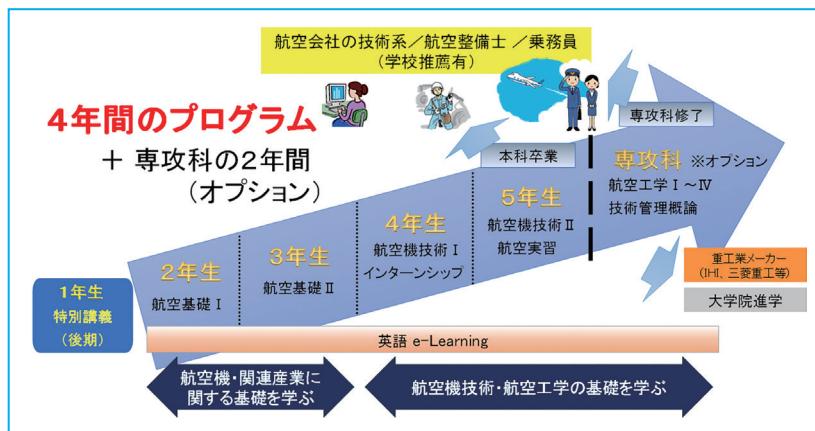
沖縄の空を、そして世界の空を支える航空技術者へ！



人材を輩出することを目的として、各専門分野の知識・技術をベースとした航空整備士並びに航空技術者を目指す人材を育成するために開設されました。この人材育成プログラムは、学科を問わず本科2年生から本科5年生までの4年間に渡る教育課程となっており、最初の2年間で航空機に関する基礎や沖縄県の航空事業や観光産業などの導入教育を第一線で活躍する担当者や本校の卒業生を講師として講義を実施し、後半の2年間ではANAからの出向の常勤講師による専門的な講義や、航空関連産業の現場でのインターンシップ実習を行います。これまでに協力機関より提供された教材も充実してきており、技術教育の面においても、その効果が期待されます。県内外の複数の協力機関と協働することにより、地域に貢献できる人材の輩出に務めています。

■ 教員（現員）

職名	出身元	氏名	担当授業
特命教授	ANA	大貫 龍哉	航空機技術Ⅰ、航空機技術Ⅱ、航空実習、インターンシップ



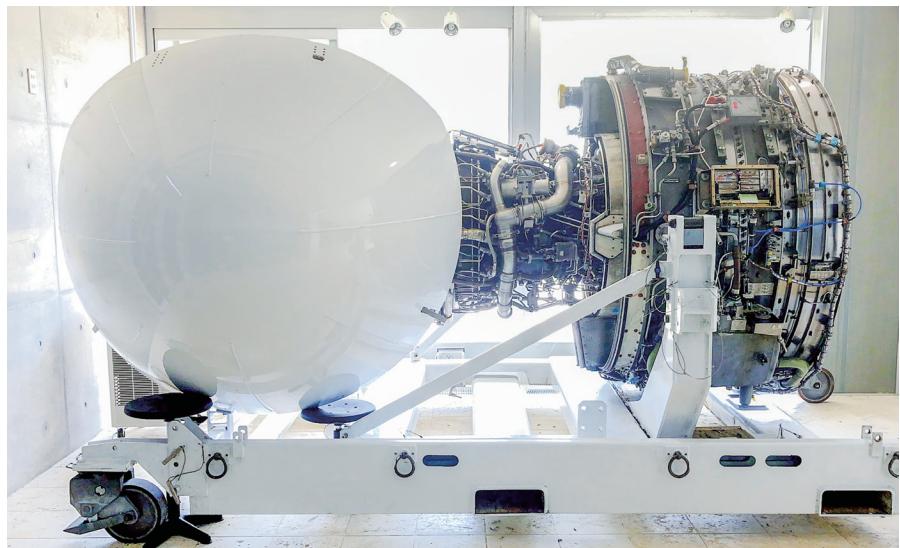
航空技術者プログラムの概略



空港施設見学の様子



実習の様子



校舎内に設置されたターボファンエンジンおよびレドームエンジン
(JTA様より寄贈)、レドーム (Peach Aviation様より寄贈)

特色のある教育

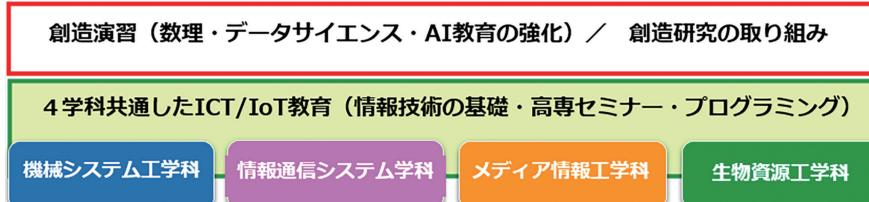
IoT教育事業

沖縄高専では、低学年で一般科目や専門科目はもちろんコンピュータの基礎技術・プログラミング・プレゼンテーションを全員が学びます。また、人財育成教育として、創造研究や高専セミナーなどの専門分野を横断した特色ある授業があります。本校の学生は、1人1台ノートパソコンを所有しており、変化する時代に活躍する技術者・研究者になるためにパソコンを活用したICT／IoT／AI教育が行われています。さらに、数理・データサイエンス・AI教育の強化を図り、課題解決型技術者の育成を目的に、令和6年度から新たな教育を進めています。地域の課題に目を向け、その課題解決に向けた社会実装を通して、毎年多くの学生達が様々なコンテストにチャレンジしています。

実施目標

- ・1年生でのIoT学習：主に簡単なプログラミングやセンシング、などの基礎技術を学びそこから、アイディアを出していくことが出来るよう授業内容を組み込む。
- ・2年生でのIoT学習：学んだプログラミングやセンシングをもとに自分でアイディアした仕組みを構築する演習を取り入れる。
- ・3年生以上でのIoT学習：学習した内容を応用し、ユーザーのニーズ把握から機器のアイディア出し、プロトタイプ機器の開発などに発展するように創造研究などに取り入れる。

⇒コンテストなどへの参加



2023年度：ICT/IoT/AIを活用したコンテスト受賞実績

大会名等	受賞内容
第5回DCON2024年 提案名：AgreenTech-リジェネラティブ農業をデザインする-	農林水産大臣賞・NECソリューションイノベータ賞・トヨタ自動車賞
第7回WiCON2023 提案名：高精度離岸流予測システムRiCAS	ワイヤレスフューチャー賞
第7回WiCON2023 提案名：沖縄北部の固有鳥ヤンバルクイナのロードキル防止と確かな保護観察 クイナート	ミライト・ワン賞
第7回WiCON2023 提案名：ワイヤレス遠隔制御を用いたゴミ回収AIロボットの研究開発	ローム賞
第7回WiCON2023 提案名：災害発生時に命をつなぐアドホック防災ヘルメット コメットの研究開発	さくらインターネット賞
第12回 高専社会実装教育フォーラム2023 提案名：優しさと協力の未来 コラボレーションプロポットの社会適応に関する研究開発	社会実装構想賞
第12回 高専社会実装教育フォーラム2023 提案名：進化する非破壊検査技術 宇宙放射線とAIによる構造物イメージング	安川電気賞
つくばScience Edge2024 提案名：IoTとAI技術を駆使した次世代のリップカレント予測システム	未来志向賞



授業の様子（マイコンによるディープラーニングプログラムの開発）



授業の様子（マイコンによる自作デバイスの開発）



社会実装フォーラム 2023年（社会実装構想賞）：
チーム名沖縄02
テーマ：優しさと協力の未来 コラボレーションプロポットの社会適応に関する研究開発



つくばScience Edge2024（未来志向賞）
提案名：IoTとAI技術を駆使した
次世代のリップカレント予測システム



DCON2024年（農林水産大臣賞・NECソリューションイノベータ賞・トヨタ自動車賞）：
チーム名沖縄高専・ミヤギ農家
テーマ：AgreenTech-リジェネラティブ農業をデザインする - (微生物×AI) で日本の農業を変えていく



未来技術の社会実装教育

(高専発!「GEAR5.0型
未来技術人財」育成事業)

防災・減災・防疫分野／ライフサイエンス拠点構築ユニット

GEAR5.0事業の紹介：

*KOSENにおける“ライフサイエンス教育・研究”的拠点構築

独立行政法人国立高等専門学校機構が推進する「高専発!『Society 5.0型未来技術人財』育成事業」の「GEAR 5.0(未来技術の社会実装教育の高度化)」に2021年に採択され、中核拠点校(研究総括：校長 佐藤貴哉、ユニットリーダー：生物資源工学科教授 池松真也)として3年を終え、これまでの成果が評価され2024年度まで一年延長となりました。協力校も鶴岡高専・長岡高専・和歌山高専・宇部高専・新居浜高専に新たに苦小牧高専が加わりました。

本事業から、これまでに以下のような研究成果が生まれ、社会実装に結び付こうとしています。

- ・「納豆菌を用いた高タンパク質の食糧を獲得するための新たなアップサイクルシステムの構築」
- ・「ミミズ粉末の社会実装を目指し、ミミズ代替タンパク質用粉末のプロトタイプを完成」

今後、タンパク質の供給源が限られていく中、新規な良質のタンパク質供給源になる。

- ・「和歌山県の特産品梅を利用した体質改善食品の開発達成」

地域に根付いた特産品に沖縄高専の次世代シーケンサーの技術で科学的付加価値を追加。

さらに、拠点校の沖縄高専では

- ・「COVID-19重症化予測簡易測定キットの開発」(名古屋大学医学部との共同研究・開発)
- ・「ヒト介入試験プラットフォームの構築」(名桜大学・沖縄科学技術振興センターとの共同事業)
- ・「大宜味村や北中城村の長寿者の腸内フローラの解析」(科学研究費(基盤研究B)、他)

など、社会貢献につながる取り組みを進めています。

また、GEAR5.0をアントレプレナーシップ教育にもつなげていくことができ、沖縄高専発の学生ベンチャーの起業を今年度中に行う予定です。

一方、公的機関との連携として沖縄県と連携した「バイオインフォマティクス人材」の育成にも力を入れ、「データサイエンス」の普及と人材育成にも一環して取り組んでいます。

GEAR5.0では毎年「ライフサイエンス・カンファレンス」を沖縄で開催し、全国の高専生が集い、グループワークや個々の研究発表を通して学生同士のネットワークを広げています(写真)。

最終年の今年は、9月5日と6日に沖縄県立博物館・美術館で開催予定です。

今後の進捗状況に関しては、GEAR5.0ホームページ等にて逐次情報発信していくので、是非注目して下さい。



最新情報は
こちらを
ご覧ください→



ライフサイエンス・カンファレンスでの集合写真
2023年9月13日沖縄高専にて
全国の国立高専から専攻科生、卒研生などが集い、「バイオインフォマティクス」など最新の科学を体験した

学生

学生定員・現員

本科

学 科	収容定員	現 員					
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
機械システム工学科	200	42(5)	39(4)	41(4)	36(3)	44(2)	202(18)
情報通信システム工学科	200	40(5)	41(7)	47(4)	41(10)	42(3)	211(29)
メディア情報工学科	200	42(11)	42(15)	42(11)	48(17)	49(19)	223(73)
生物資源工学科	200	41(18)	40(26)	46(24)	38(16)	40(18)	205(102)
計	800	165 (39)	162 (52)	176 (43)	163 (46)	175 (42)	841 (222)

※(注) ()は女子で内数。

専攻科

専 攻	収容定員	現 員		
		第1学年	第2学年	計
機械システム工学コース	48	9(1)	5(0)	14(1)
電子通信システム工学コース		6(0)	9(1)	15(1)
情報工学コース		4(0)	5(1)	9(1)
生物資源工学コース		10(6)	8(1)	18(7)
計	48	29 (7)	27 (3)	56 (10)

※(注) ()は女子で内数。

入学志願者及び入学者

令和6年度入試実績

本科

学科	募集定員	志願者数				入学者数			
		学力	推薦	帰国生徒	計	学力	推薦	帰国生徒	計
機械システム工学科	40	36 (3)	13 (2)	0 (0)	49 (5)	28 (2)	13 (2)	0 (0)	41 (4)
情報通信システム工学科	40	30 (5)	21 (3)	0 (0)	51 (8)	19 (2)	21 (3)	0 (0)	40 (5)
メディア情報工学科	40	40 (7)	32 (10)	0 (0)	72 (17)	20 (2)	22 (9)	0 (0)	42 (11)
生物資源工学科	40	37 (11)	22 (15)	0 (0)	59 (26)	19 (3)	22 (15)	0 (0)	41 (18)
計	160	143 (26)	88 (30)	0 (0)	231 (56)	86 (9)	78 (29)	0 (0)	164 (38)

※(注) ()は女子で内数。

専攻科

学科	募集定員	志願者数			入学者数		
		学力	推薦	計	学力	推薦	計
機械システム工学コース	24	1 (0)	9 (1)	10 (1)	1 (0)	8 (1)	9 (1)
電子通信システム工学コース		3 (0)	5 (0)	8 (0)	1 (0)	5 (0)	6 (0)
情報工学コース		4 (0)	2 (0)	6 (0)	2 (0)	2 (0)	4 (0)
生物資源工学コース		3 (1)	9 (6)	12 (7)	1 (0)	9 (6)	10 (6)
計	24	11 (1)	25 (7)	36 (8)	5 (0)	24 (7)	29 (7)

※(注) ()は女子で内数。

県内外別入学者数の内訳

本科

学 科	学 力			推 薦		
	県内	県外	計	県内	県外	計
機械システム工学科	27	1	28	13	0	13
情報通信システム工学科	18	1	19	21	0	21
メディア情報工学科	17	3	20	21	1	22
生物資源工学科	19	0	19	21	1	22
計	81	5	86	76	2	78

専攻科

学科	学 力			推 薦		
	県内	県外	計	県内	県外	計
機械システム工学コース	5	1	0	1	8	0
電子通信システム工学コース		1	0	1	5	0
情報工学コース		2	0	2	2	0
生物資源工学コース		1	0	1	8	1
計	5	0	5	23	1	24

※(注) 専攻科は「出身中学校」で計上。

外国人留学生の出身国内訳

国・地域名	本 科						専攻科		
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計	第1学年	第2学年	計
タイ	0 (0)	3 (0)	4 (1)	1 (1)	1 (0)	9 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
チュニジア	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
マレーシア	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ミャンマー	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
インド	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	0 (0)	3 (0)	5 (1)	3 (2)	3 (0)	14 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※(注) ()は女子で内数。

高等学校等就学支援金制度

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込む社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

※就学支援金は学生本人（保護者等）が直接受け取るものではありません。学校が学生本人に代わって国から就学支援金を受け取り、授業料に充当するものです。授業料と就学支援金との差額分については学生本人に負担していただくことになります。

【支給対象者】

本科1年生～3年生で、定められた所得判定基準未満の世帯が就学支援金支給の対象となり、学校に申請を行うことにより、下表に記載の金額が支給されます。

但し、①本校入学前に高等学校等を卒業した学生、②留年、休学等により在学期間が通算して36月を超える学生は対象となりません。

所得判定基準等

市町村民税の課税標準額 × 6% - 市町村民税の調整控除の額（※） (保護者等合算額)	就学支援金支給額 (月額)	授業料 本人負担額 (月額)
304,200円以上～	0円（支給なし）	19,550円
154,500円以上～304,200円未満	9,900円（一律支給のみ）	9,650円
0円（非課税）～154,500円未満	19,550円（加算額9,650円）	0円

※6%は市町村民税の標準税率（標準税率との関係で、調整控除の額について指定都市の場合は調整（3/4 を乗じる）が必要）。また、調整控除とは、平成19年に国から地方へ税源が移譲したことによい生じる個人住民税と所得税の人的控除の差額に起因する負担増を調整するための控除。

奨学生

日本学生支援機構奨学金 第一種及び第二種奨学金貸与月額表

学年		第一種奨学金	
		自宅通学	自宅外通学
本科	1年		
	2年	21,000円又は10,000円	22,500円又は10,000円
	3年		
	4年	45,000円・30,000円・ (20,000円)から選択	51,000円・(40,000円)・ 30,000円・(20,000円) から選択
	5年		
専攻科	1年	45,000円・30,000円・ (20,000円)から選択	51,000円・(40,000円)・ 30,000円・(20,000円) から選択
	2年		

※（ ）は平成30年度入学者より選択可能。

学年		第二種奨学金	
		自宅通学	自宅外通学
本科	4年		
	5年	20,000円から120,000円までの金額の中から 1万円単位で選択可能	
専攻科	1年		
	2年		

令和5年度奨学金受給実績（高等教育の修学支援新制度除く）

区分		本科					専攻科		計							
		1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年								
在学者数								164	161	173	178	149	27	28	880	
支援機 日本学生 構	第一種	自宅通学	1	0	3	6	4	2	4	20						
		自宅外通学	3	3	8	13	20	4	7	58						
第二種								0	0	0	3	6	3	1	13	
その他の機関								4	7	4	8	5	2	4	34	
計								8	10	15	30	35	11	16	125	
制度利用者の割合								4.9%	6.2%	8.7%	16.9%	23.5%	40.7%	57.1%	14.2%	

主な学費

就学費用

入学料	授業料	日本スポーツ振興センター共済掛金
84,600円	年	234,600円

高等教育の修学支援新制度

令和2年4月から、要件を満たす本科4年生～5年生及び専攻科生に対し、高等教育の修学支援新制度が適用され、学校に申請を行うことにより、授業料等の減免及び給付型奨学金の給付が受けられます。なお、本科1年生～3年生は「高等学校等就学支援金制度」により授業料の支援がありますので、本制度の対象外となります。

授業料等減免の上限額（年額）※

入学料（専攻科）	授業料
84,600円	234,600円

給付型奨学金の給付額（月額）※

自宅	自宅外
17,500円	34,200円

※住民税非課税世帯の学生の場合。住民税非課税世帯に準ずる世帯の学生は、住民税非課税世帯の学生の2/3又は1/3の支援額。

令和5年度実績

区分	本科	専攻科		計
		4年	5年	
在学者数	178	149	27	28
第Ⅰ区分	30	30	4	4
第Ⅱ区分	9	6	2	1
第Ⅲ区分	11	4	2	3
計	50	40	8	8
制度利用者の割合	28.1%	26.8%	29.6%	28.6%
第Ⅰ区分	33	30	5	4
第Ⅱ区分	7	8	2	2
第Ⅲ区分	11	1	4	1
計	51	39	11	7
制度利用者の割合	28.7%	26.2%	40.7%	25.0%

令和6年3月卒業者の進路状況

令和6年5月1日現在

区分	学 科					合 計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
	卒業者数※2	31	43	34	32	140
合格状況	進学希望者数	12	20	12	14	58
	合格者数	10	16	9	12	47
	うち専攻科合格者数	8	6	4	10	28
	うち3年次編入等合格者数	2	10	3	2	17
	うち専門学校・その他合格者数	0	0	2	0	2
	進学決定率(進学者数／進学希望者数)	83.3%	80.0%	75.0%	85.7%	81.0%
	進学先※1	沖縄工業高等専門学校専攻科(8) 豊橋技術科学大学 北見工業大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(6) 豊橋技術科学大学(4) 長岡技術科学大学(2) 東京大学 千葉大学 琉球大学 熊本大学	沖縄工業高等専門学校専攻科(4) 豊橋技術科学大学 東京国際工科専門職大学 北見工業大学 代々木アニメーション学院福岡校 バンタンデザイン研究所	沖縄工業高等専門学校専攻科(10) 長岡技術科学大学 高知大学	
	就職希望者数	19	23	22	18	82
内定状況	就職者数	18	21	20	18	77
	就職率(就職者数／就職希望者数)	94.7%	91.3%	90.9%	100.0%	93.9%
	就職先企業名※1 (県内) 県内に本社のある企業	アズビル株式会社	沖縄セルラー電話株式会社 MRO Japan 株式会社 株式会社プロソリューション	株式会社ビーンズラボ かまちよかい株式会社 株式会社ヴィッツ沖縄(2)		
	計 1 名	計 3 名	計 4 名	計 0 名	県内計 8 名	
	就職者に占める割合 6%	就職者に占める割合 14%	就職者に占める割合 20%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 10%	
	就職先企業名※1 (県外) 県外に本社がある企業	サントリーロダツ株式会社(2) ANAライムテクノロジクス株式会社 株式会社情報技研 富士電機株式会社 矢崎総業株式会社(2) ANAペスシナフテクニクス株式会社 株式会社マイテックフィルダーズ アマゾンジャパン合同会社 キヤノンティカルシステムズ株式会社 DMG 森精機株式会社 水 ing 株式会社 東空販売株式会社 NOK 株式会社 ANAスカイビルサービス株式会社 パーソルクロステクノロジー株式会社	株式会社SunAsterisk 株式会社JALエンジニアリング 独立行政法人国立印刷局 株式会社アテック 出光興産株式会社(3) 日本オーチス エレベータ株式会社 NTTデータソフィア株式会社(2) エヌアイエス・テクノサービス株式会社(2) 株式会社第一テクノ 株式会社ピクソソ 株式会社エヌティティ・エムイー(2) 西日本高速道路株式会社 ANAスカイビルサービス株式会社	西日本電信電話株式会社 株式会社日立システム21 エヌアイエス・テクノサービス株式会社 NTTデータソフィア株式会社 フラー株式会社 株式会社ハイマックス Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社 株式会社アルトナー 株式会社ヴィッツ 株式会社トヨタシステムズ 株式会社クリエイティブキャスト 株式会社マイテックフィルダーズ 三菱電機エンジニアリング株式会社 ピクシブ株式会社 株式会社 FIXER アマゾンジャパン合同会社	株式会社土木管理総合試験所 株式会社カヨウエンジニアリング 三洋化成工業株式会社 富士フィルム株式会社 旭化成株式会社(4) サトリーホールディングス株式会社(2) 株式会社メンバーズ 雪印メグミルク株式会社(2) 株式会社常磐植物化学研究所 株式会社ヤクルト本社 ターレックスコーヒージャパン株式会社 株式会社レゾナック 株式会社雪国まいたけ	
	計 17 名	計 18 名	計 16 名	計 18 名	県外計 69 名	
	就職者に占める割合 94%	就職者に占める割合 86%	就職者に占める割合 80%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 90%	

※ 1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を（ ）内に示しています。

令和6年3月修了者の進路状況

令和6年5月1日現在

	区分	コース				合計
		機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
	修了者数	8	10	5	5	28
合格状況	進学希望者数	1	0	2	2	5
	合格者数	1	0	2	2	5
	うち大学院等合格者	1	0	2	2	5
	うち専門学校・その他合格者	0	0	0	0	0
	進学合格率(進学者数/進学希望者数)	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	進学先※1	豊橋技術科学大学大学院		九州工業大学大学院 北陸先端科学技術大学院大学	奈良先端科学技術大学院大学 広島大学大学院	
内定状況	就職希望者数	7	10	3	3	23
	就職者数	7	10	2	2	21
	就職率(就職者数/就職希望者数)	100.0%	100.0%	66.7%	66.7%	91.3%
	就職先企業名(県内) 県内に本社のある企業	株式会社アクロラド	JTA インフォコム株式会社 日本トランスポージョン航空株式会社 沖縄セルラー電話株式会社			
	計1名	計3名	計0名	計0名	計4名	
	就職者に占める割合 14%	就職者に占める割合 30%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 19%	
	就職先企業名(県外) 県外に本社がある企業	SUBARU テクノ株式会社 セイコーエプソン株式会社 株式会社資生堂 イトーヨーカドー 株式会社 SUBARU シャープ株式会社	NTT 東日本グループ会社 株式会社レッドクリフ KDDI 株式会社 横河リューションサービス株式会社 株式会社トヨタシステムズ 株式会社アイ・エス・ピー 株式会社 PLAY	アリバ・アライシング・コンサルーム株式会社 日産自動車株式会社 三井製糖株式会社 旭化成株式会社		
	計6名	計7名	計2名	計2名	計17名	
	就職者に占める割合 86%	就職者に占める割合 70%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 81%	

※1 同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を()内に示しています。

卒業生のコメント

「卒業生の活躍の様子」

情報通信システム工学科4期卒業生 前 蔵 貴 行



情報通信システム工学科四期卒業生の前蔵貴行です。私は現在、半導体メモリメーカーで開発業務に従事していますが、この職に就いたのも沖縄高専があったからだと思っています。

学生時代に半導体工学の授業を受けた際に、「電子やバンドギャップなど出てくる単語もかっこいいし、これがパソコンやスマホを作る基礎になっているんだ、なんか面白いな」と思ったのをきっかけに、本科の卒業研究から大学院の博士課程まで研究に没頭することができ、幸いにも半導体に関わる仕事に就くことができました。

社会人になった今、学生時代を振り返ると高専で学んだことが基礎となって、現在役に立っているなど感じています。卒業研究では課題解決能力や資料作成、発表する力を培うことができましたし、様々な授業でグループワークもあり、目標に向かって協力することも学べました。

現在、在学中の学生も日々、勉学に励んでいることだと思います。沖縄高専でしっかり力をつければどんな道に進んだとしてもきっと大丈夫だと思います。ですが、道に迷ったときは周りに流されず、自分の意思を大事にしてください。この一つだけは常に心に留めておいてほしいです。今後の皆さんのご活躍を楽しみにしています。学生生活も存分に楽しんでください！

学生寮

沖縄高専の学生寮は、1年生と2年生は優先的に入寮することができます。3年生以上で引き続き入寮を希望する場合には、学生寮委員会で審議し、入寮の可否を通知します。

本校の学生寮は単に通学の便宜を図るためだけではなく、「学習の充実を図り、安全・安心な学びの環境を調えるとともに、基本的な生活態度や社会性を身につけ人間的成長を促進させる」ことを目的とした教育施設としての役割も果たしています。

カードキー、防犯カメラ、赤外線警戒センサーなどの警備設備のほか、当直教職員2名が寮内の安全を保持しています。

学生寮経費

(令和6年度)

寄宿料	800円（月額）
寮管理費	4,300円（月額）
居室電気料	前月使用分（月額）
給食費（3食）	1,300円（日額）

居室数

男子寮	女子寮	合計
408室	138室	546室

※ 居室は全て1人部屋です。

※ 居室とは別に、体調不良時に速やかに帰省できない場合の静養室を、男子寮に8部屋、女子寮に5部屋確保しています。



日課表

事項	平日	休日
起床	6:30～	6:30～
朝点呼	6:40～ 6:55	6:40～ 6:55
朝食	7:00～ 8:20	7:00～ 8:20
登校	7:15～ 8:30	
学生寮施錠	8:30～14:30	
昼食	12:00～13:00	12:00～13:00
夕食	18:00～19:30	18:00～19:30
入浴	15:30～20:10	15:30～20:10
門限	20:10	20:10
夕点呼	20:10～20:30	20:10～20:30
清掃	20:30～21:00	20:30～21:00
学習時間帯	21:00～23:00	21:00～23:00
消灯準備時間帯	23:00～23:30	23:00～23:30
完全消灯	23:30	23:30

入寮者数

令和6年5月1日現在

	機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	合計	
本科	1年	39(3)	38(5)	41(10)	39(16)	157(34)
	2年	37(4)	38(7)	33(10)	39(25)	147(46)
	3年	24(4)	29(2)	29(6)	28(11)	110(23)
	4年	15(3)	22(6)	26(6)	16(6)	79(21)
	5年	9(0)	14(1)	8(3)	8(4)	39(8)
専攻科	専攻科1年	4(1)				6(1)
	専攻科2年	2(0)				

※ () はうち女子寮生

レストラン

晴れた日にはきれいな太平洋の眺めも楽しめるレストランは、寮生食堂のほか、教職員や寮生以外の学生のための一般食堂があります。ほかに学生会室、和室があり、学生が集まる憩いの場所になっています。



図書館 Library

図書館（メディア棟4階）は、教育・研究を支援する拠点の1つとして機能しています。

館内には自然科学や工学の専門書をはじめ、一般教養に役立つ資料、学術雑誌、百科事典、CD-ROM、DVD、ビデオテープ、カセットテープ、県内・本土・英字新聞、英語多読・多聴図書、高専・大学資料等を所蔵しています。

また、電子ジャーナルやデータベース、電子図書等を提供しています。

多くのことを学び、知識を広める情報収集活動の場・学習の場としてご活用ください。

開館時間

通常期	月～金曜日 8時～20時 土曜日 9時～17時
休業期	月～金曜日 8時40分～17時 (週末開館無し)

休館日

日曜・祝祭日
年末年始
休業期の土曜

施設

閲覧室：740m²
座席数：125席
AVブース：2席
メディアホール
自動貸出機
図書盗難防止システム
蔵書検索用端末
拡大読書機
電子ジャーナル・電子図書
閲覧用端末



蔵書数

【図書】(冊) 括弧内は内数で外国語図書

令和6年5月1日現在

総記	哲学・心理学	歴史・地理	社会科学	自然科学	技術・工学	産業	芸術・体育	言語	文学	計
5,724 (319)	2,708 (103)	3,292 (117)	9,073 (318)	15,202 (1,269)	12,135 (966)	1,848 (34)	5,481 (1,178)	19,154 (16,788)	8,633 (58)	83,250 (21,150)

【雑誌】 購読タイトル数 58 保有バックナンバー 19,589 冊

【新聞】 9紙

【視聴覚資料】 1,865 点

利用状況

年度	開館日数	入館者数	図書貸し出し冊数（実本）				図書等閲覧数			
			総数	学生	教職員	学外利用者	オンライン 電子図書	雑誌	新聞	電子 ジャーナル
令和5年度	279	73,290	9,003	7,508	1,424	71	523	893	1,339	3,071

情報検索データベース・電子ジャーナル

電子システム	概要
JDream III	科学技術全般文献データベース
CiNii Research	国内学術情報データベース
Science	米国科学振興協会発行の雑誌「Science」の電子版
Science Direct	エルゼビア社の電子ジャーナル

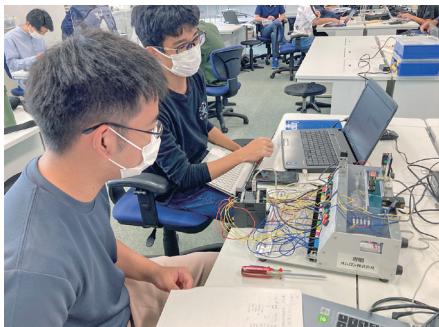
電子システム	概要
MathSciNet	米国数学会の数学文献データベース
理科年表プレミアム	国立天文台が編纂する自然科学系データブック
Maruzen eBook Library	丸善雄松堂の電子図書
Kinoden	紀伊國屋書店の電子図書

技術支援室

技術支援室は、実践的な教育・研究および地域貢献活動に対して、専門的な知識を活かして効果的・効率的に沖縄高専の教育・研究を支援するための組織です。本室には9名の技術職員が在籍し、実習工場系、電気電子情報系、生物科学分析系の技術分野を中心に専門4学科と連携した教育・研究活動を行っています。実験・実習および卒業研究においては専門的な知識に基づいた技術支援・指導を行うとともに、共同研究などにおける装置開発・機器分析に加えて、出前授業・公開講座などの地域貢献活動にも積極的に取り組んでいます。また、夢工場、学内のネットワーク環境・機器類、温室などの全学的な施設・設備の管理を行い沖縄高専の教育研究活動を全面的に支える存在です。



材料加工システム I (仕上げの実習風景)



情報通信システム工学科実験 II
(シーケンス制御の実験を行う様子)



Okinawa Kosen Camp で受け入れたシンガポールからの研修生に、地元沖縄の自然と動植物を紹介しました



創造演習
(Arduino を用いた距離計測演習)



化学および化学実験法
(精密天秤を用いた質量計測)

職名	氏名	技術分野
技術長代理・副技術長 技術専門員	藏屋 英介	実験装置の開発、天然物・食品の機能性評価、におい・香りの分析評価
技術専門員	具志 孝	汎用工作機械、CAD、CAM、NC 工作機械
工実場 系習	技術主査 技術専門職員	NC 工作機械、汎用工作機械、エンジン動力の性能評価
	技術職員	汎用工作機械、NC 工作機械、設計、CAD
情電 気電 報電 系子	技術職員	情報処理、ネットワーク、サーバ、クラウド
	技術職員	システム設計・開発、データベース設計・運用
	技術職員	情報処理、Web デザイン
分生物 析科学 系学	技術主査 技術専門職員	バイオイメージングを活かした教育・評価、在来生物の利用と基礎研究
	技術職員	海産生物の生態、遺伝子工学

夢工場

沖縄高専に入学した学生は、創造力にあふれモノづくりに強い関心があり、その希望を叶える場として夢工場があります。学生の安全のため常に、技術職員が常駐しわからない事、やってみたい事があればいつでも技術相談ができる体制です。また夢工場の設備は、沖縄高専の学生なら自由に使用する事ができ、工具の貸出も行っています。使い方のわからない工具や工作機械の使用方法も教えています。さらに難しい機械加工の場合は、一緒にモノづくりの手助けを行っています。

夢工場は、実習の場でもあり基礎的なモノづくりに関連する実習を行っています。他にも、航空整備基礎実習、卒業研究、創造研究、ロボコンなど夢工場では様々な活動が行える環境が整っております。また夢工場の隣には、ロボコンの部室があり、ロボットコンテストに向けたロボット製作のバックアップも行っています。



放課後 夢工場の様子



夢工場で作業する学生の様子



学生の活動をテレビ、フォトフレームを使って公開している



学生の実習製作品

多文化共生・国際交流推進本部

令和4年度に「多文化共生・国際交流推進本部」を組織し、沖縄県の文化・歴史・風土、地域特性等を踏まえ、学内の「教育」「研究」「国際」の各組織が連携して以下の取り組みを推進しています。発足2年目の今年度は、センター間の連携を強化してオンキャンパス国際化を推進します。

- ①留学生への効果的な教育（日本語・日本文化教育センター）
- ②国際的な視点・見識を持ちつつ地域に根差した人材の育成（留学生センター）
- ③地域の諸課題等へ積極的に関与することによる地域振興への貢献（グローカル連携推進センター）
- ④諸外国研究者等との国際的な先端研究を推進（国際共同研究推進センター）



1.日本語・日本文化教育センター

本校の外国人留学生の修学等を支援するとともに、日本人学生及び地域住民等との交流を促進し、本校における国際教育を推進します。令和5年度の主な実績、地域貢献は、以下のとおりです。

- ・名護市国際交流協会主催第14回日本語弁論大会特別賞受賞
- ・宜野座高校文化祭参加及び学生交流
- ・桜野特別支援学校交流会（タイ紹介、タイのデザート作り）・JICA研修員文化交流会
- ・名護市国際交流企画課三線体験・名護市国際交流協会主催夜市 タイティー配膳協力
- ・沖縄地域留学生協議会主催 留学生親善交流会
- ・やんばる食×文化フェスティバル食に関する研究パネル展示
- ・名護市国際交流協会グローバル講座留学生講師派遣（緑風学園、久志小学校）
- ・新年行事もちつき大会



そのほか、学内外でさまざまな留学生交流イベントを実施しております。多文化共生の視点から高専留学生も地域の市民の一員として活躍します。

2.留学生センター

本校の学生の海外派遣及び国際交流事業並びに海外からの短期留学生受入事業を推進し、本校における学生の国際交流を推進します。現在、本校では14名の留学が在学しています。

- 5年生 タイ（1）、チュニジア（1）、マレーシア（1）
- 4年生 タイ（1）、マレーシア（1）、ミャンマー（1）
- 3年生 タイ（4）、インド（1）
- 2年生 タイ（3）



低学年から高学年まで多くの留学生を受け入れることによって、多文化共生・国際交流が学内で活発になっております。また、令和5年度から学生の海外派遣プログラムを再開しています。

3.グローカル連携推進センター

沖縄県におけるグローカル教育および生涯学習を推進するとともに、地域の教育機関と連携して教育水準の向上を図り、地域振興に貢献しています。令和5年度は30を超えるテーマの出前授業およびイベントを県内各地で開催し、皆様からご好評を頂きました。また、地元小学校の「磯の生物観察会」に、海洋生物に詳しい高専教員が同行するなど、地域との連携を深めてまいりました。令和6年度も、地域の皆様と共に楽しく学びの輪を広げています。



4.国際共同研究推進センター

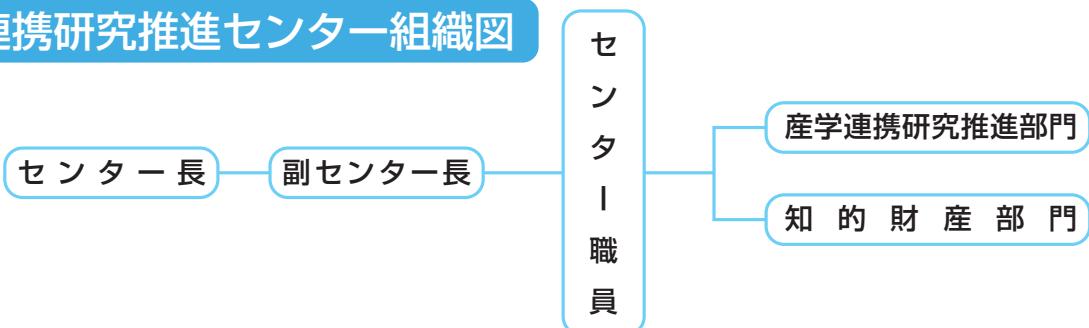
本校の教職員の国際共同研究及び国際交流を推進します。主な業務内容は、A) 教職員の国際共同研究の推進に関すること、B) 研究者交流事業の策定・調整・実施に関することです。今年度は、教員が在外研究で滞在したことのある国を始め、複数教員が派遣されているタイとの連携を模索します。将来的には、教職員が始めた国際研究を学生にも拡大・還元していきます。

地域連携研究推進センター

地域連携研究推進センターは、本校における教育研究の進展に寄与し、本校の有する人的資源、知的資産、施設を活用して、地域社会との緊密な連携や交流を推進することにより、地域社会における人材の育成、科学の発展、技術開発及び産業の活性化に貢献するとともに、地域文化交流及び地域課題の解決支援に資することを目的としています。

当センターには、センター業務を円滑に遂行するために「产学連携研究推進部門」、「知的財産部門」を設けており、機動的に活動できる組織となっています。

地域連携研究推進センター組織図



技術相談会

本校では、企業等における技術的な課題を解決するため、本校の有する研究成果や技術的知識を広く活用した技術相談会を実施しています。相談申込者に対する技術的な課題解決に向けての支援及び相互の研究開発等の活性化を図るための技術指導・助言や情報交換を行っており、相談申込者と本校の共同研究に発展するものもあります。これまで、多数の皆様に技術相談会にご参加いただき、相談申込者と本校教職員の間で活発な意見交換を行いました。今後も本校は相談申込者が抱える様々な技術課題に関して、連携により課題が解決されるよう取り組んでまいります。

定期の技術相談会としまして、毎月沖縄産業支援センター（那覇市）において、2社を対象として個別に開催しています。また、相談申込者の希望日に合わせた、随時の技術相談会も受け付けていますので、技術相談会へのお申込みをご希望の際は、総務課研究連携企画係までご連絡ください。

技術相談受入件数（過去3年度）

令和3年度	令和4年度	令和5年度
34	37	35



沖縄産業支援センターでの定期技術相談会



企業を訪問しての技術相談会

産業界との連携

平成16年4月に沖縄県内の経済・産業界を中心として、沖縄高専の教育・研究活動を側面から支援するとともに、産学間の共同研究を推進し、産業振興に寄与することを目的に「沖縄工業高等専門学校産学連携協力会」が設置されました。企業等を対象とした研修事業の実施や技術交流・技術相談等の交流事業などの活動が行われています。現在、県内外の118の企業団体及び19の個人会員で組織しています。

《令和5年度 産学連携協力会の主な活動内容》

- ・産学連携協力会理事会、総会、懇親会の開催
- ・沖縄高専フォーラムの共催
- ・沖縄高専課外活動団体活動費の支援
- ・沖縄高専地域連携研究推進センター報製作費の支援
- ・沖縄の産業まつりへの出展費の支援
- ・社会人向けセミナーの開催
- ・沖縄高専主催「業界研究会」参加申込企業への参加費の支援
- ・沖縄工業高等専門学校創立20周年記念事業の支援

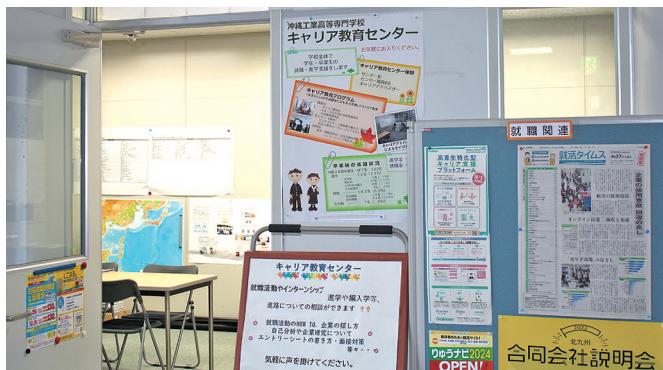


沖縄高専産学連携協力会総会の様子

キャリア教育センター

キャリア教育センターは、本校学生のキャリア形成と学生及び卒業生の進学・就職活動を支援することを目的としています。具体的には、単に進路決定のための情報提供や支援のみならず、学生が自己分析・自己理解を進め、インターンシップなどを通して社会やさまざまな職業を理解していくことで、「自分の進路を自分で決定できる能力」を養う教育を行います。

沖縄県の新規学卒者等総合就職支援事業により、令和4年4月から就活コーディネーターがキャリア教育センター室に常駐し、学生の就職等に関する個別相談に対応しています（週5日：10:00～19:00）。



キャリア教育センター室の様子



業界研究会の歩き方(オンライン実施によるキャリア講演会・セミナー)の様子

学生相談・支援室

学生相談・支援室は、学生権利擁護の観点から、学生、保護者、教職員から寄せられる相談に応じ、安心して相談できる環境を提供します。臨床心理士の資格をもつカウンセラー（非常勤）が、授業期間中の平日は毎日、相談員として相談に応じ、学生寮においても週5日相談員を配置しています。令和5年度は、週4日ソーシャルワーカーが勤務しており、連携した支援体制づくりを行っています。相談の結果、学生が自分の問題を自分で解決し、学生生活を改善していくことができるよう、学内外の連携を強化し、必要な支援の調整にあたります。

コロナ禍における対応を経験値として、オンラインでの相談もできるようになっています。



カウンセリングルームの様子



サポートルームの様子

情報処理センター

本校では、教室や実験室だけでなく、学生寮も含め建物内のほとんどの場所でネットワークが使える環境を整えております。情報処理センターではサーバやネットワーク、共有ファイルシステム、無線 LAN システムなどの管理、運用を行っています。また、学生が活用しているノートパソコンにトラブルが発生した際の技術相談も行っています。



新入生 PC 設定会の様子

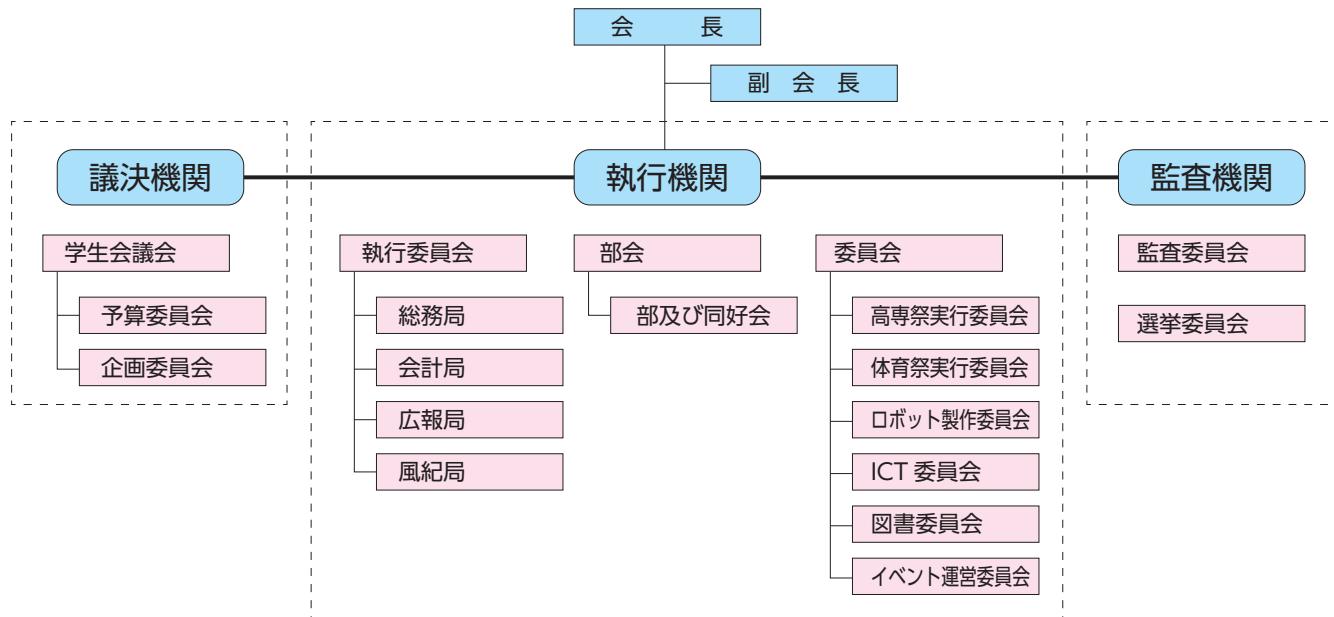


学生への技術相談の様子

学生会

<学生会組織>

本校では、「学校の指導のもとに、学生の自主的な活動を通して、会員それぞれの人間形成を助長し、高等専門教育の目的達成に資すること」を目的として、学生全員で構成する学生会を設置しております。学生会の活動には、会長をはじめとする執行委員会の活動及びそれぞれの目的を持った部会、各種委員会の活動があります。



体育祭



高専祭

九州沖縄地区高専体育大会主要実績

開催年度	種目	成績
令和3年度	水泳競技 男子200mバタフライ (代替大会)	優勝
令和4年度	水泳競技 男子100m背泳ぎ	2位
	水泳競技 女子100m背泳ぎ	2位
	水泳競技 男子100m自由形	3位
令和5年度	水泳競技 男子100m背泳ぎ	2位 (全国大会4位)
	水泳競技 男子200m個人メドレー	3位

コンテスト関係主要実績

最新情報は
こちらを
ご覧ください→



<ロボットコンテスト(九州沖縄地区大会)>

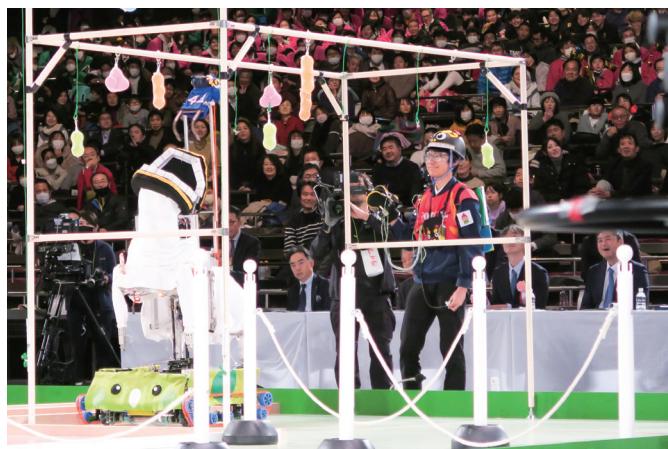
開催年度	チーム名	成績
令和3年度	沖縄高専 A チーム	特別賞（全国大会特別賞受賞）
令和4年度	沖縄高専 A チーム	特別賞
	沖縄高専 B チーム	デザイン賞（全国大会エキシビション参加）
令和5年度	沖縄高専 A チーム	技術賞（全国大会アイデア賞受賞）

<プログラミングコンテスト>

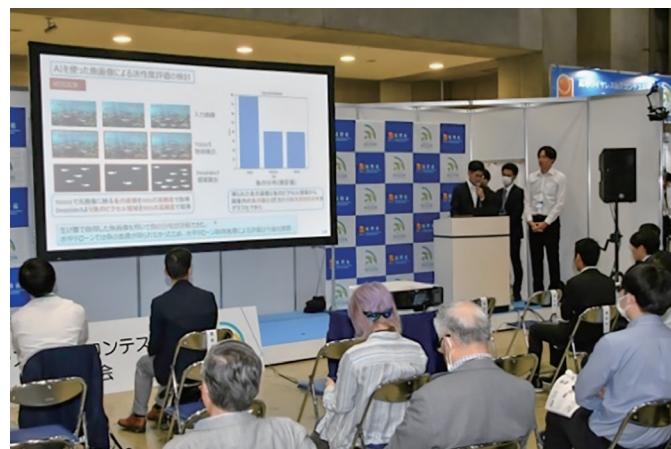
開催年度	部門	成績
令和元年度	課題部門	特別賞
令和4年度	自由部門、課題部門	敢闘賞
令和5年度	自由部門、課題部門	敢闘賞

<その他のコンテスト>

開催年度	大会名	成績
令和3年度	全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト	TDK賞
	高専ワイヤレス IoT 技術実証コンテスト	社会課題解決大賞
令和4年度	高専ワイヤレス IoT コンテスト2022(電波利用システム利活用部門)	海洋保全高連携大賞、ビーチドローンズ大賞
	第1回高専 GIRLS SDGs × Technology Contest (高専 GCON2022)	文部科学大臣賞
	2022 年度ロボットアイデア甲子園全国大会	不二越賞
令和5年度	高専ワイヤレステックコンテスト 2023 (ワイヤレス利活用部門)	ワイヤレスフューチャー賞、 ミライト・ワン賞 ローム賞、さくらインターネット賞
	テクノ愛コンテスト 2023	1位 (高校生の部) 1位 (大学生の部)
	第 14 回 Software Challenge Award 2023	特別賞 (1位相当)



ロボコン地区大会出場



コンテスト出場

DCON2024での学生の活躍

■ 農林水産大臣賞、NECソリューションイノベータ賞、トヨタ自動車賞受賞

高専生が事業性を競う「ものづくり×AI」のビジネスコンテスト第5回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2024 (DCON2024) が2024年5月10日(金)・11日(土)に渋谷ヒカリエホールで行われ、本校学生のチーム「ミヤギ農家」が農林水産大臣賞、NECソリューションイノベータ賞、トヨタ自動車賞を受賞しました。

ミヤギ農家は、情報通信システム工学科と生物資源工学科の学生ら計8名が集まり結成したチームで、各学科の強みを活かした環境保全への取り組みが高く評価されました。今回のDCON2024で提案した「AgreenTech」は、農業領域でAIやドローン、ICTを活用する AgriTech と、持続可能な農業を実現するための資源や環境に配慮したテクノロジーである GreenTech を統合したもので、化学肥料や農薬に頼らない環境再生型農業の実現を目指すものです。情報通信システム工学科の学生は、ドローンや土壤分析から得た各種データに基づく精密農業を実現するためのAIを独自開発し、生物資源工学科の学生は、地域から発生する食品残渣（微生物のエサ）やバイオ炭を有効活用し、微生物の力で土壤環境を再生しつつ、炭素を地中に固定する事でカーボンニュートラルにも貢献する土壤改良資材を開発しました。現在は、土壤微生物が放出する二酸化炭素成分から土壤環境の良し悪しを判定するAIの開発にも着手しており、スマート農業や生物多様性領域における今後益々の活躍が期待されます。



本選（最終審査会）の様子



技術審査会の様子



農林水産大臣賞受賞の様子



NECソリューションイノベータ賞受賞の様子



トヨタ自動車賞受賞の様子

女性教員の活躍

独立行政法人国立高等専門学校機構では、「男女共同参画社会基本法」（平成11年6月23日法律第78号）の理念に基づき、男女共同参画推進体制を構築しています。（男女共同参画担当理事を長として、男女共同参画推進室を置いています。）

沖縄工業高等専門学校は、機構の下「男女共同参画推進委員会」を設置し、男女共同参画の意識啓発やワーク・ライフ・バランスのための環境整備等を推進しています。本校においても、数多くの女性教員が日々教育・研究分野等で活躍しています。

略歴紹介

日本語・日本文化教育センター 特命准教授 サビケ 理奈



はいたい、ぐすーよ！（こんにちは、みなさん）サビケ理奈と申します。現在、沖縄高専の日本語・日本文化教育センターに所属し、主に留学生の日本語学習や生活のサポートをしています。また国際交流委員会の顧問をしており、留学生と在校生が交流できるイベントを学生と共に企画・運営をしています。

私は沖縄で生まれ育ちました。天気がいい日にはよくスノーケリングに行ったり、BBQを楽しんだりしています。また、畑でハーブやパッションフルーツを栽培しており、収穫できたものをおすそ分けするのも楽しみの一つです。特技は沖縄空手と琉球古武道で、週に2回ほど南部の道場で鍛錬を続ける傍ら、希望する留学生や高専生にも教えています。なんと嬉しいことに今年度から創造研究の授業でも琉球古武道の指導をすることになりました！



さて、私が世界の国々、文化、言語に強い興味を持ち、結果として日本語教師の道を進むことになったのは、幼いころから父親の仕事の関係で来沖している外国人と接する機会がたびたびあったのが大きなきっかけでした。そして高校生の時には米国へ、大学在学時には台湾へそれぞれ1年間の留学をする機会にも恵まれ、現地の人々との関わりを通じて、問題解決能力やチャレンジ精神が身に付き、自由で柔軟な発想ができるようになったと思います。

大学卒業後、日本語教師の資格を取得し、フィジー共和国のインターナショナルスクールで数か月の間日本語教師のボランティアをしながら、YMCAで空手や琉球古武道を教えていました。帰国後は沖縄にある語学学校や高等教育機関で4年の間、非常勤講師として日本語を教えた後、タイ王国の大学で4年間の専任講師を経験しました。そして香港で6年間、日本の大学への進学希望者を対象とした日本語非常勤職を経て、2022年2月から縁あって沖縄高専で特命准教授として着任いたしました。

日本語教師として心掛けていることは、学生一人ひとりの出身国の言語や文化、習慣について把握した上で、授業内外を問わずコミュニケーションを通じて相互理解を深めることです。個々の学生の考え方を尊重し、よく観察することによって、それぞれが自分の方法で問題を解決するように導くことができる信じています。また、出身国、学習レベルやクラスの雰囲気に応じて臨機応変に指導方法を変え、「学ぶことは楽しい！」と思ってもらえるような授業づくりに取り組んでいます。

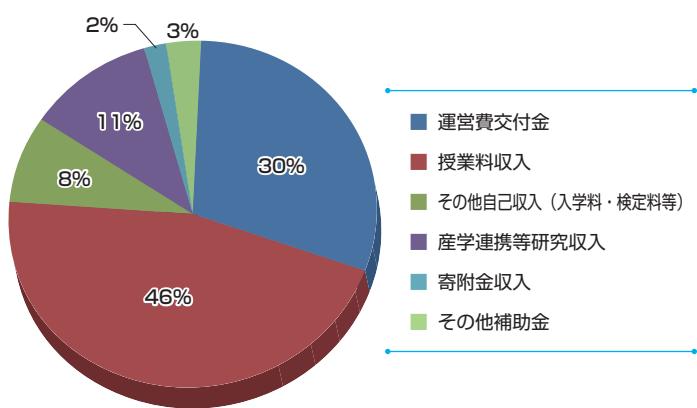
授業外のサポートでは、ホームシックになる留学生も少なくはないことから、日本の生活に少しでも早く慣れもらえるように日本の文化や風習を紹介、体験したり、一緒に母国の料理を作って食べたり、学生の興味から日本での生活に馴染める方法を一緒に探したりしています。また、学生生活における相談を受けた時には、自分が留学した時を振り返りながら、私の失敗談や成功したことをシェアしながら、最終的には学生達自身で問題を乗り越えられるように導いています。

着任3年目を迎えて、学生の相談に乗ることや、一緒に楽しい時間を過ごすことによって絆が深まったのか、学生が気軽に話しかけてくれるような信頼関係が築けてきていると実感しています。これからも私が培ってきた経験と高専の教育資源を活かした日本語学習や生活のサポートを通して教育目標である「実践力があり、自らの考え方を表現、自ら学ぶことのできる、広い視野と倫理観を備えた人材」の育成を支えていきたいと考えています。

収支報告・外部資金

収入・支出決算額（令和4年度）

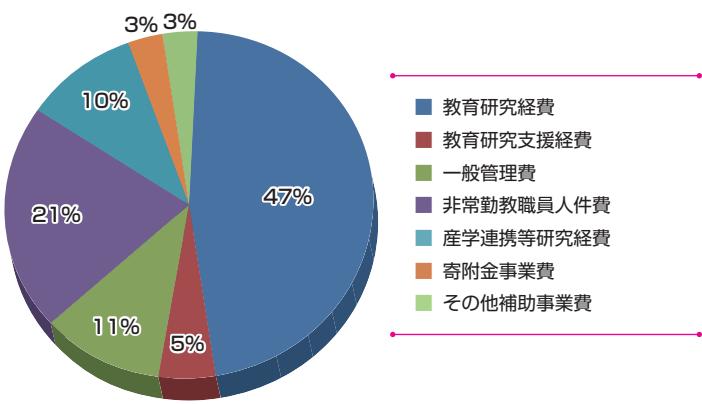
■ 収 入



収入	金額 (単位:千円)
運営費交付金	131,415
授業料収入	200,901
その他自己収入（入学料・検定料等）	34,520
産学連携等研究収入	47,648
寄附金収入	9,017
その他補助金	12,405
計	435,906

※常勤人件費については本部事務局で計上しているため、運営費交付金に含めず

■ 支 出



支出	金額 (単位:千円)
教育研究経費	187,380
教育研究支援経費	20,801
一般管理費	43,211
非常勤教職員人件費	84,460
産学連携等研究経費	41,905
寄附金事業費	11,217
その他補助事業費	12,405
計	401,379

外部資金受入件数・金額

令和6年5月1日現在

年度／研究費名	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
共同研究	16	7,563	19	8,302	12	6,694
受託研究	7	12,690	10	46,430	8	32,772
科学研究費	34	37,985	33	28,844	31	28,590
寄附金	7	6,143	8	4,514	13	11,794
助成金	3	3,280	7	15,246	5	5,720
受託事業	2	12,810	1	11,442	2	23,001
受託試験	0	0	0	0	1	500
合計	69	80,471	78	114,778	72	109,071

建物配置図・土地・建物

創造・実践棟

- 機械システム工学科
- 情報通信システム工学科
- メディア情報工学科
- 生物資源工学科
- 総合科学科
- 専攻科

メディア棟

- 図書館
- IT教室・CALL教室
- 事務部
- 視聴覚ホール
- レストラン

体育館

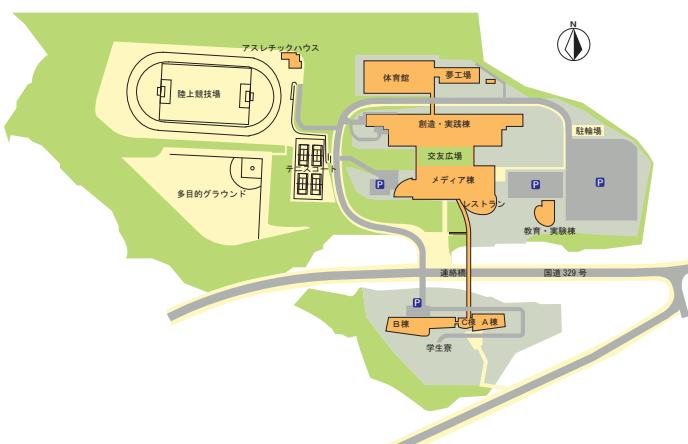
- アリーナ
- 格技場
- トレーニング場
- 伝統芸能道場
- プール

土 地

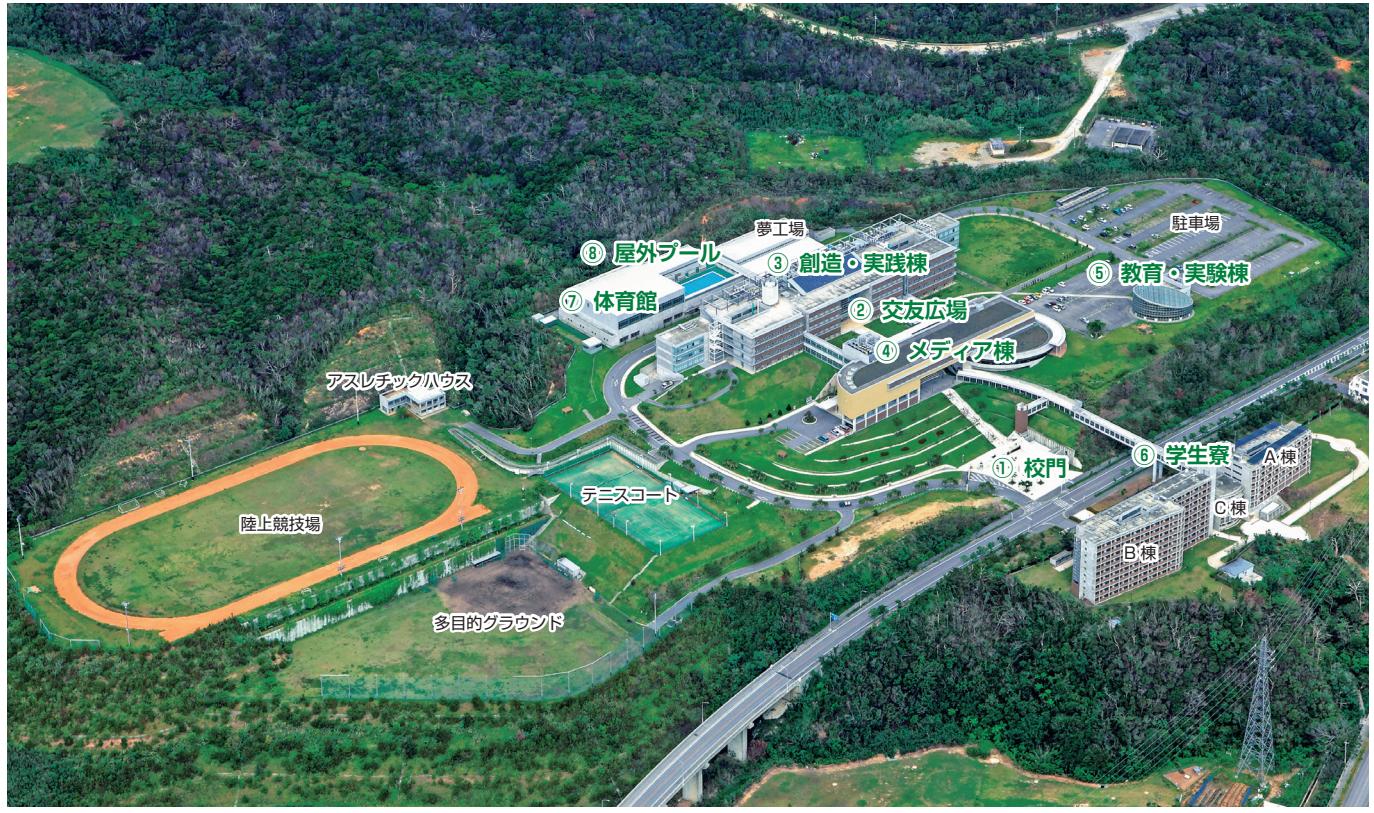
総面積	使用区分			
	校舎等	屋外運動場	学生寮	その他
156,056m ²	49,100m ²	36,100m ²	11,600m ²	59,256m ²

建 物

区分	名称	構造	延面積
校舎等施設	創造・実践棟	R4	14,009m ²
	メディア棟	R4	5,023m ²
	夢工場	S2	665m ²
	教育・実験棟	S1	498m ²
体育施設	体育館	RS2	2,707m ²
	アスレチックハウス	R2	256m ²
学生寮施設	学生寮	R9	11,105m ²
合 計			34,263m ²



国道329号側から眺める建物外観



キャンパス全景



① 校門



② 交友広場



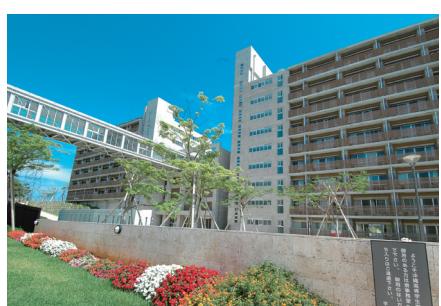
③ 創造・実践棟



④ メディア棟



⑤ 教育・実験棟



⑥ 学生寮



⑦ 体育館



⑧ 屋外プール

沖縄工業高等専門学校校歌

作詞 古賀 義伸
作曲 上江洲安彦
編曲 上江洲安彦

深き緑の山原の
丘に聳えし学び舎に
夢を求めて集いし我ら
友とともに、師とともに
技術の地平を切り拓く
ああ、沖縄高専
光り輝け

辺野古の海を見晴るかす
丘に聳えし学び舎に
大志抱きて集いし我ら
友とともに、師とともに
未知なる海原漕ぎ進む
ああ、沖縄高専
光り輝け

日本の最南、美ら島の
丘に聳えし学び舎に
世界目指して集いし我ら
友とともに、師とともに
パイオニアの精神連綿と
ああ、沖縄高専
光り輝け

沖縄工業高等専門学校校歌

作詞 古賀 義伸
作曲 上江洲安彦
編曲 上江洲安彦

Allegretto
♩ = 116

1 ふかきーみどりの ゃんばるの おか
2 への一のうみを みはるかす おか
3 にほんーのみなみ ちゅらしまの おか
4 にーそびえし まなびやに ゆめを ーもとめ
5 にーそびえし まなびやに たいし ーいだき
6 にーそびえし まなびやに せかい ーめざし
7 てつどいしわれら ーともーと ーともに
8 てつどいしわれら ーともーと ーともに
9 てつどいしわれら ーともーと ーともに
10 てつどいしわれら ーともーと ーともに
11 しとともに ぎじゅつ の 一ちへいを きりひらくあ
12 しとともに みちなる 一うなばら こぎすすむあ
13 しとともに バイオニアの 一ここーろ れんめんとあ
14 15 16 17 18
19 あおきなわこーせんひかりーかがやけ
20 あおきなわこーせんひかりーかがやけ
21 22 23



位置及び交通機関

県内から

那覇バスターミナル
(系統番号 77)
「名護バスターミナル」
行きに乗車
↓
路線バスにて
↓
「沖縄高専入口」下車
徒歩 5 分
バス路線の経由地詳細は、
<http://okinawabus.com/> を参照願います。

中部病院
(系統番号 22)
「名護バスターミナル」
行きに乗車
↓
路線バスにて
↓
「沖縄高専入口」下車
徒歩 5 分

自動車の場合は、沖縄自動車道「宜野座 I.C.」
を出て国道 329 号を北に約 10km 左側。
(国道上の歩道橋が目印です。)

県外から

(空港からの所要時間：約 2 時間)

●那覇（なは）空港国内線ターミナル到着
2 番バス停から下記①または②のいずれか
①(系統番号111)高速バス
「名護（なご）バスターミナル」
行きに乗車
↓
「宜野座 I. C.」下車
(ぎのざインターインジ)
歩道にて路線バス乗り場まで移動
「中央公民館前」から
(系統番号77)
「名護バスターミナル」
行きに乗車
↓
「沖縄高専入口」下車
徒歩5分

②(系統番号117)高速バス
「オリオンもとぶリゾート」
行きに乗車
↓
「世富慶（よふけ）」下車
↓
歩道橋を渡り
道路反対側より
(系統番号77)
「那覇（なは）バスターミナル」
行きに乗車
↓
「沖縄高専入口」下車
徒歩5分



独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

